私のことば

ファイトを持て

児玉九十
全国高体連ハンドボール部長
明星大学学長、明星高校長

私は昭和三十九年六月、高体連ハンドボール部長就任の交渉を受けました。当時ハンドボールについての知識はないし、明星大学が四月開校したばかりであるし、教育関係の役員とか委員とかいうものは大学創設準備を理由に徐々に減らしていただいていた。従来の関係で断わりきれない私学関係や文部方面のこともまだ残っていましたから、堅くお断わりいたしましたが、学苑の関係先生方が「決して迷惑はおかけしません。名前だけでいいから……」と強硬に申して引き下がりません。徳永陸繁先生も「いっさい自分たちがやります。迷惑はかけませんから、せめて名前だけでも……」と強く強くおっしゃるものですから、とうとう部長をお引き受けしたのです。

お引き受けした決意については、ここで初めて発表しますが、明星高校ハンドボール部員の無言のファイトが大きな原因の一つでもあった。それは昭和三十九年元旦に例年どおり大国魂神社に初参拝して帰ってみると、ハンドボール部員は猛烈な練習をやっていました。それを見て、私はいままで何回となく決勝で敗れて第二位に立たされたこの部員は、ことしはきっと一位になると直感いたしました。元旦からやろうと自発的に立ち上がったファイトは、実に崇高なものでした。

果たせるかな、この年の八月、信州上田の全国高校選手権大会で初の全国優勝を遂げました。そして昨年八月盛岡の全国高校選手権大会でも優勝し、二カ月おいて大分の第21回国体で優勝しました。みなさんのご後援、OB諸君の指導のたまものでありますが、中心は部員の内心から湧き出るファイトが根本だったと信じます。私は、スポーツは人間性を涵養するのに非常に役立つと信じています。そのなかでもファイトという根本の気力を振るい起こし、これを長養する点においては随一といっても過言ではないかと思っています。昨年十一月二十七日、国立競技場で明星大と米軍とのアメリカンフットボールの試合が開かれたとき、49―18で明星大が敗れましたが、米軍司令官は「明星大チームはファイテング・スピリットがあり、ますますりっぱになるチームだ」と激賞していたように、ファイトはスポーツの根本精神と思いました。

ファイトは人間活動の源泉である。またスポーツの中心精神である。どのスポーツでも盛んになることを祈っていますが、日本における歴史が浅いハンドボールもだんだん世に認められつつあり、さらに努力されることを切望します。（了）

ハンドボール「第41号目次」

昭和42年3月号

私のことば「ファイトを持て」……………児玉九十…（1）

— 第6回男子7人制世界選手権・詳報 —
日本，またもノルウェー倒す…（2）

—— 海外スコープ ——
西ドイツの組織運営……………………（5）
ソ連が69万で第1位……………………（5）

—— 第7回全日本実業団選手権大会 ——
田村紡が初優勝……………………（6）
男子は大崎電気が7連勝

球界パトロール……………………（13）

○実業団連盟だより○「全役員が留任」…（14）
○時　評○ 実業団の男女別開催………（16）
○楽書き帖○ 娘1人にムコ3人…………（16）

—— 日本協会に望む ——
相互間の和 ……………… 徳永陸繁…（18）
若年層への指導 ………… 宗形守敏…（18）
将来の指標を示せ ……… 田中滋章…（19）
愛好者へのサービス …… 若山　博…（19）

—— ことしの目標 ——
都城工高（宮崎）松田丈二，大分東高（大分）川西良広，菊池農高（熊本）荒木時弥，熊本県協会理事長 藤田八郎，明善高（福岡）荒木英之，若松高（福岡）日野　博………（21）
新居浜工高（愛媛）高橋満年，新居浜西高（愛媛）玉田貢，下関中央高（山口）槙敏夫，修道高（広島）平田幸男，境高（鳥取）高木敏行，山陽女高（広島）片岡賢二，児島高（岡山）楠戸榛也，洛星高（京都）小西博喜…（22）
住吉学園高（大阪）常石栄志，夙川学院高（兵庫）下野和美，西宮東高（兵庫）白井勇中京商高（愛知）横井保信，加納高（岐阜）森川俊章，明星高（東京）高橋英次……（23）
神代高（東京）大塚文雄，麻生高（茨城）柏崎茂，栃木女高（栃木）細井操，水海道二高（茨城）鈴木孝八郎，涌谷高（宮城）山崎金夫……………………（24）

—— 学園だより ——（26～28）
四日市高（三重）天竜林業高（静岡）金沢工大付高（石川）金沢商高（石川）世羅高（広島）初芝高（大阪）高水高（山口）臼杵高（大分）洛星高（京都）新庄工高（山形）

連載第30回
ハンドボール球史……………………（30）
～全日本総合選手権編最終回～

地方だより……………………（32）
編集後記……………………（32）

〔表紙写真〕 第7回全日本実業団選手権大会女子決勝リーグの大崎電気対田村紡戦

第６回男子７人制世界選手権大会詳報

日本、またもノルウェー倒す

木野23点、飯端22点をあげる

日本は10位

第６回男子７人制ハンドボール世界選手権大会は１月12日から21日までスウェーデン各地で開かれチェコスロバキアが初優勝した。日本は第一次リーグでノルウェーを破って１勝２敗の成績をあげ，10位となった。馬場太郎団長，村田弘監督ら一行20人は２月５日夜帰国した。以下の記録は本誌40号に掲載の詳詳です。（記録はフランスのスポーツ紙「レキップ」から）

世界選手権大会成績

大会	成績
第4回（1961年）西ドイツ	●日本10―38チェコ ●日本11―29ルーマニア
第5回（1964年）チェコ	○日本18―14ノルウェー ●日本10―40ソ連 ●日本12―36ルーマニア
第6回（1967年）スウェーデン	●日本25―30ハンガリー ●日本27―38西ドイツ ○日本21―17ノルウェー

日本善戦す

◇B組第一次リーグ

▽第１戦（１月12日午後７時30分・キルナ）

ハンガリー 30（14―11, 16―14）25 日本

ハンガリー	得		得	日本
J・コバックス	0	GK	0	尾形
ベラ	0	GK	0	竹下
アドリアン	1	FP	1	北井
マロシ	5	FP	0	北村
フェンヨ	1	FP	0	江名
カルオ	4	FP	6	木野
ナギー	0	FP	2	近森
L・コバックス	8	FP	2	飯田
バルガ	6	FP	0	青木
クレイン	2	FP	12	飯端
トノズキー	1	FP	2	近藤
シモ	2	FP		
計	30	7MT （6）（1）	25	

〔評〕立ち上がりは互角で、ハンガリーの早い攻撃からのポストプレー、日本のセットオフェンスからのロングシュートがよく決まった。しかし中盤ハンガリーの速攻、外人特有のボールを持ってのポストプレーがよく決まって点差がついた。終盤こんどは逆に日本の速攻で追い上げ、２点差とした。

後半にはいって、立ち上がりの悪い日本は大きく引き離され、日本の追い込みはおそかった感じ。結局、日本は飯端、木野のロングシュートにたより、ポストプレー、サイド攻撃がなかったのが敗因である。

日本２敗す

▽第２戦（１月13日午後７時30分・キルナ）

西ドイツ 38（11―15, 27―12）27 日本

「レフェリー」プボーゲル（スイス）

西ドイツ	得		得	日本
デュエル	0	GK	0	尾形
		GK	0	竹下
バルト	1	FP	3	北井
バルテルス	6	FP	0	青木
フェルドッフ	6	FP	3	江名
ヘーゲル	1	FP	8	木野
ヘニッヘ	3	FP	5	近森
ルブキング	10	FP	0	飯田
ミューライゼン	3	FP	1	関根
シュマッケ	3	FP	6	飯端
シュミット	5	FP	1	近藤
計	38	7MT （2）（2）	27	

〔評〕前半日本はロングシュート、速攻で得点を重ねた。一方、西ドイツは長身者（196センチ）はフリースローラインからのロングシュートを決めた。日本はポストを多く使われて得点を許した。木野、飯端、近藤の好プレーが光った

世界選手権個人得点表

選手	試合	得点
木野	3	23
飯端	3	22
近森	3	9
北井	3	8
近藤	3	4
江名	3	4
飯田	3	2
関根	3	1
北村	3	0
青木	3	0
山田	3	0

日本、ノルウェーを破る

木野の好打光る

▽第３戦（１月15日午後３時・ルーレオ）

日本 21（10―10, 11―7）17 ノルウェー

日本	得		得	ノルウェー
尾形	0	GK	0	バイ
竹下	0	GK	0	ヘイルント
山田	0	FP	1	バエク
北井	4	FP	2	カペレン
江名	1	FP	3	シェンフェルト
木野	9	FP	0	グルデン
近森	2	FP	3	ライネルトセン
飯田	0	FP	1	ルンドベリー
青木	0	FP	2	ハンセン
飯端	4	FP	0	クレペラス
近藤	1	FP	5	グンネルート
計	21	7MT （1）（1）	17	

▽反則退場〔日本〕江名２回、青木〔ノルウェー〕３人。

〔評〕前半の日本はミスが目だち、得点に結びつけることができなかったが、中盤からロングシュートが決まり出した。

後半日本はディフェンスをがっちり固め、ノルウェーを破った。

日本選手団

役職	氏名	所属
団長	馬場太郎	日本協会副会長
監督	村田弘	大阪三国丘高教諭
コーチ	勝繁夫	立大監督
	稲石三二	桜台高監督
マネジャー	中沢重夫	芝浦工大監督
主将	青木義男	大阪イーグルス
GK	尾形譲	立大
	竹下洋一	中大
FP	吉金勇	常盤工業
	近藤信行	芝浦工大
	関根邦夫	芝浦工大
	山田透	芝浦工大
	近森克彦	芝浦工大
	江名英彦	全立大
	木野実	立大
	北村文雄	立大
	飯田誠行	同志社大
	飯端寿昭	関学
	北井晴次	埼玉教員
	大西武三	東京教大

チェコが初優勝
ルーマニア3連勝ならず

スウェーデン敗る（前回2位）

◇準々決勝

ソ連 19（9―9、10―7）16 西ドイツ
チェコ 18（9―8、9―3）11 スウェーデン
デンマーク 14（8―8、6―5）13 ユーゴ
ルーマニア 20（7―7、13―12）19 ハンガリー

◇5―8位決定一四戦

スウェーデン 21（11―8、10―11）19 ハンガリー
西ドイツ 31（17―18、14―12）30 ユーゴ

◇7―8位決定戦

ユーゴ 24（15―11、9―9）20 ハンガリー
「レフェリー」クネドセン（デンマーク）

得	ユーゴ		ハンガリー	得
5	ウレモビック	FP	フェンヨ	10
4	ミルコビック		マロシ	7
4	プリバニオ		コバックス	1
2	ボクラヤク		アドリアン	1
1	コプリビカ		バルガ	1
3	ホルバット			
3	イザコビック			
2	ドヤラネク			
24				20

西ドイツ6位

◇5―6位決定戦

スウェーデン 24（12―12、12―10）22 西ドイツ
「レフェリー」ドレザル（チェコ）

得	スウェーデン		西ドイツ	得
8	ホジニ	FP	シュワンツ	5
6	ソガースタッド		ルブキング	4
5	カールストローム		シュミット	4
3	エリクソン		ヘーゲル	4
1	コシ		バルテルス	2
1	カームペンダール		ホニング	1
			ミューライゼン	1
			ミュンク	1
24				22

ルーマニア敗れる

◇準決勝

デンマーク 17（8―4、9―8）12 ソ連
「レフェリー」ロコマニス（西ドイツ）

得	デンマーク		ソ連	得
4	カーエ	FP	クリモフ	4
4	ユルゲンス		マツール	2
3	クリスチャンセン		セレノフ	2
3	ボドスガード		ソロムコ	2
1	ガード		エルクセリーゼ	1
1	ニールセン		レベデフ	1
1	スベンドセン			
17				12

チェコ 19（8―7、11―10）17 ルーマニア
「レフェリー」カールソン（スウェーデン）

得	チェコ		ルーマニア	得
7	デュダ	FP	グルイア	11
4	ハブリク		モーゼル	2
3	コネクニー		リク	2
2	ブルナ		ヤコブ	1
1	マレシュ		グネス	1
1	シンナー			
1	ベネシュ			
19				17

ルーマニア3位
グルイア大活躍

◇3位決定戦

ルーマニア 21（10―11、11―8）19 ソ連
「レフェリー」シュナイダー（西ドイツ）

得	ルーマニア		ソ連	得
12	グルイア	FP	クリモフ	8
3	モーゼル		ゲルバツ	5
3	ヤコブ		ソロムコ	3
1	ゲイツ		マツール	2
1	グネス		セレノフ	1
1	コスタケ			
21	(3)	7MT	(3)	19

チェコ初優勝
コネクニーが好打

◇決勝

チェコ 14（6―3、8―8）11 デンマーク
「レフェリー」ヤネルスタム（スウェーデン）

得	チェコ		デンマーク	得
4	コネクニー	FP	クリスチャンセン	4
4	ブルナ		ボドスガード	2
3	デュダ		ガード	2
2	マレシュ		ルンド	1
1	ハブリク		カーエ	1
			スベンドセン	1
14	(2)	7MT	(2)	11

ベスト7

GK	ホルスト	（デンマーク）
FP	デュダ	（チェコ）
	ブルナ	（チェコ）
	マレシュ	（チェコ）
	グルイア	（ルーマニア）
	ティデマン	（東ドイツ）
	ソロムコ	（ソ連）

得点王はルブキング

個人得点（6試合）
（カッコ内は7MT）

順位	選手	国	得点	7MT
1.	ルブキング	（西ドイツ）	38	(5)
2.	シュミット	（西ドイツ）	36	(5)
2.	ミコビック	（ユーゴ）	36	(25)
4.	ブルナ	（チェコ）	34	(0)
4.	グルイア	（ルーマニア）	34	(5)
4.	クリモフ	（ソ連）	34	(15)
7.	フェンヨ	（ハンガリー）	30	(6)
8.	デュダ	（チエコ）	28	(0)

チーム得点

1.	西ドイツ	158
2.	ユーゴ	136
3.	ハンガリー	126
4.	チェコ	123
5.	スウェーデン	118
6.	ルーマニア	114
7.	ソ連	113
8.	デンマーク	92

チーム失点

1.	チェコ	73
2.	デンマーク	77
3.	ルーマニア	87
4.	ソ連	95
5.	ユーゴ	110
6.	スウェーデン	112
7.	ハンガリー	130
8.	西ドイツ	139

〔海外スコープ〕

西ドイツの組織運営

西ドイツの室内ハンドボールは昨年、全国的組織〝ブンデスリガ〟をつくった。これはサッカー、バスケットボール、アイスホッケー、レスリング、卓球に次いで六つ目の〝ブンデスリガ〟である。

室内ハンドボールの〝ブンデスリガ〟は大方の予想を裏切って大成功、昨年前半の56試合で7万6000人の観客を集めた。入場券の売り上げがいちばん多かった（一万八千枚）のは、西ベルリンの〝ライニッケンドルファー・フュックセ〟だった。室内ハンドボールが従来組織的に二分されていたのは、この部門のスポーツクラブの大年が資金に乏しかったためで、フランチャイズチームはゲストチームの財政的失敗を防ぐために、試合収入の四〇%を支払っている。

このシステムは小さなホールが一つしかなく、このため入場料収入に期待が持てない〝ＶＦＬグンヌースバッハ〟（北グループ第１位）のようなクラブにとっては重要です。〝ブンデスリガ〟の結成は、資金的にはまだ運営が楽ではないとはいえ、国際的水準を保つという点ではプラスである。昨年のオーストリアの世界選手権大会で優勝した西ドイツの屋外ハンドボールも、ことし中に〝ブンデスリガ〟をつくって、組織の中央集中化を実現することになろう。

ソ連が69万で第1位
チーム数は西ドイツ

近着のフランス・スポーツ紙「レキップ」によると、ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）はこのほど日本を除く加盟国のチーム数、登録選手を発表した。

国　名	チーム数	選手数
1. ソ連	20,330	690,000
2. 西ドイツ	33,017	495,255
3. デンマーク	8,722	98,259
4. 東ドイツ	6,650	94,000
5. スペイン	3,657	73,153
6. ハンガリー	3,657	69,880
7. ユーゴ	4,958	49,581
8. ルーマニア	2,207	46,457
9. スウェーデン	3,645	43,250
10. オランダ	2,840	40,658
11. チェコ	2,069	39,899
12. ポーランド	1,579	31,580
13. スイス	2,380	31,500
14. フランス	2,840	31,370
15. ブルガリア	1,918	30,696
16. ノルウェー	1,451	14,755
17. オーストリア	1,082	13,421
18. アラブ連合	257	7,260
19. チュニジア	205	4,257

(20) ポルトガル　(21) フィンランド
(22) アイスランド　(23) カナダ
(24) モロッコ　(25) イスラエル
(26) 韓国　(27) ルクセンブルク
(28) ベルギー　(29) セネガル
(30) 米国　(31) コートジボアール
(32) ブラジル

ハンドボールまんが（2）

画・安達忠良

第7回全日本実業団選手権大会

田村紡（三重）宿願の初優勝 女子

男子は大崎電気（埼玉）が7連勝

42年2月・名古屋市

高松宮杯・第7回全日本実業団ハンドボール選手権大会は2月4日から8日までの5日間、名古屋の愛知県体育館（5日のみ金山体育館併用）に男子32、女子5チームが参加して開かれた。これまで最高の32チームが出場した男子はトーナメントで争われ、予想どおり大崎電気（埼玉）が5試合で164点をあげる圧倒的強味をみせて7年連続優勝。女子はトップチームが総当たり戦で激突、連日スタンドを沸かす好ゲームを展開した結果、田村紡績（三重）が宿願の初優勝を飾った。なお、ことしから大会優秀選手が表彰されることになり、別掲の男女14人が選ばれた。

全日本実業団選手権大会成績

	男子優勝	女子優勝
1回	大崎電気	愛知紡
2回	大崎電気	愛知紡
3回	大崎電気	愛知紡
4回	大崎電気	レナウン東京
5回	大崎電気	大崎電気
6回	大崎電気	大洋デパート
7回	大崎電気	田村紡

レベル向上、低調から脱皮

男子（32チームによるトーナメント）

▽一回戦

日進商会（神奈川）23（12―11、11―7）18 東海製鉄（愛知）
常盤工業（岐阜）30（17―13、13―5）18 丸善石油（和歌山）
千代田印刷機製造（東京）25（15―2、10―3）5 静岡日野自動車（静岡）
住友化学菊本（愛媛）33（20―11、13―8）19 安田生命（東京）
川崎車輌（兵庫）33（18―12、15―8）20 タヨシ産業（愛知）
自衛隊勝田（茨城）26（13―6、13―5）11 大同製鋼（愛知）
本田技研（三重）36（20―3、16―4）7 住友金属（和歌山）
日本鋼管福山（広島）28（15―11、13―7）18 日立製作（茨城）
昭和染工（愛知）25（10―7、15―9）16 京都信用金庫（京都）
三菱重工（愛知）25（11―8、14―11）19 原子力研究所（茨城）
宗形製作所（大阪）40（24―7、16―8）15 武田薬品光（山口）
以上愛知県体育館

大崎電気（埼玉）42（23―10、19―5）15 中部電力（愛知）
日本鋼管川崎（神奈川）22（12―7、10―9）16 日本碍子（愛知）
日新製鋼（広島）22（10―13、12―8）21 三菱油化（三重）
盛岡市役所（岩手）29（16―9、13―9）18 小松製作所（石川）
冨士レジン（兵庫）23（11―8、12―5）13 北陸電力（福井）
以上金山体育館

〔評〕これまでの大会の一回戦は低調な試合が多く、実業団球界の底の浅さを現わしていたが七年目ともなると、さすがにこの大会に備えた練習、研究のあとがうかがわれ、レベルの向上を裏付けた。愛知県体育館会場は日進商会対東海製鉄がもつれた。両チームとも積極的に攻め合い、リードされた東海が後半粘りを発揮、10分を残して16―19と追い込んだが、日進はそのあと村田（法大出）の好技で逃げ込んだ。住友化学対安田生命は、坂井（中大出）斎藤、田口（法大出）らをそろえた安田の試合ぶりに注目されたが、プレーがまとまらず住友の多彩な攻撃に屈した。

金山会場は日新製鋼対三菱油化が激戦。初出場の三菱油化は後半9―12の劣勢から栗山（四日市工高出）を中心に猛反撃、連続6点を奪って試合の主導権を握った。そのあと日新の反撃を受けながらも21―19としたときは、そのまま押し切るかにみえたが、日新は27分小笠原（広島大出）7MT、28分川岡（呉商高出）がゲットして同点、29分再び7MTを小笠原が決めてあざやかに逆転勝ちした。日本鋼管川崎対日本碍子も碍子の逆襲で予断を許さぬ展開となったが、鋼管は残り5分から赤裏（古川工高出）らの好技でふり切った。

▽二回戦

大崎電気 38（19―8、19―7）15 冨士レジン
住友化学菊本 37（18―11、19―7）18 川崎車輌
日本鋼管川崎 20（9―7、11―7）14 日新製鋼
本田技研 20（14―5、6―4）9 自衛隊勝田
日進商会 25（14―12、11―7）19 盛岡市役所
日本鋼管福山 32（19―9、13―7）16 昭和染工
常盤工業 15（12―7、3―4）11 千代田印刷機製造
宗形製作所 28（16―7、12―7）14 三菱重工

〔評〕好カード常盤工業対千代田印刷機製造は期待どおりの接戦となった。先手は千代田がとり、それを常盤が小刻みに追い駆ける形となったが、互いに早いつぶしをみせたため常盤は10分から10分間、千代田は17分以後無得点。

勝負をかけた後半、常盤は前夜に世界選手権から帰国したばかりの吉金（芝浦工大出）をキーポイントに鳥村（岐阜西工高出）高橋（大垣農高出）らが積極的に攻め、守っては大野（大垣農高出）が堅いマークで千代田のエース青木（芝浦工大出）の動きを封じ、試合の主導権を握り押し切った。前回二位の千代田も主力六人が退社し、青木一人ではどうにもならなかった。

日本鋼管川崎対日新製鋼は同形チームの対戦で互角だったが、鋼管は前半なかばから試合のペースを握り、日新を突き放した。このほか大崎電気、宗形製作所、住友化学のシードチームが攻防両面で多彩なテクニックをみせ、あぶなげなく勝ち進んだ。敗者チームのなかでは盛岡市役所のまとまりが注目された。三菱重工、川崎車輌も好チームで、相変わらず三菱は尾之内（桜台高出）深谷（中京商高出）川崎は守屋（新居浜工高出）が元気なプレーをみせたが、彼らへの依存から脱皮しなければ、チームとしての前進は望めないのではなかろうか。

優秀選手を表彰

全日本実業団ハンドボール連盟は大会終了後、ベスト７（優秀選手）を選出、賞状、カップを贈って表彰した。

▽男子

ＧＫ福本　弘（大崎電気）
ＦＰ竹野奉昭（大崎電気）
　　北村尚英（大崎電気）
　　井上素行（大崎電気）
　　加藤久勝（住友化学）
　　北山義広（住友化学）
　　久保　勤（宗形製作）

▽女子

ＧＫ渡辺美智子（田村紡）
ＦＰ小林五子（田　村　紡）
　　渡辺好子（田　村　紡）
　　清水一子（田　村　紡）
　　早川清美（大崎電気）
　　黒川泰恵（大崎電気）
　　新保郁子（大洋デパート）

▽準々決勝

大崎電気 30（17－4, 13－5）9 日本鋼管川崎

得	【鋼管】		【大崎】	得
0	湯原	GK	福本	0
		GK	下里	0
2	林	FP	西村	7
4	小林	FP	北村	5
0	鈴木	FP	井上	7
1	赤裏	FP	竹野	4
0	村上	FP	金田	2
0	岩野	FP	宮田	2
2	桜井	FP	加藤	3
0	斎藤	FP	小谷野	0
0	青木	FP	小田口	0
9	（1）	7MT	（1）	30

【評】鋼管は前半10分まで互角に試合を進めたが、そのあとハンドリングの悪さからみすみす大崎にボールを与えてしまい、半ばすぎからは一方的な経過となった。大崎はGK福本（後半11分から下里）の好パスアウトを口火になだれ込むような攻撃をみせたが、鋼管ディフェンスにもう少し当たりがあれば、こうまで大差はつかなかったろう　（杉山　茂）

常盤工業 23（15－9, 8－4）13 日進商会

得	【日進】		【常盤】	得
0	大柴	GK	渡辺	0
0	佐藤俊	GK		
0	山下	FP	高橋	8
6	村田	FP	片岡	2
2	生熊	FP	桃井	3
0	林	FP	吉金	4
0	芦田川	FP	鳥村	2
1	西川	FP	大野	3
2	佐藤京	FP	峰岸	1
2	米沢	FP	赤堀	0
0	大石	FP		
13	（3）	7MT	（4）	23

【評】常盤は吉金をリードオフマンに、長身の高橋のロングシュートを生かしてリードした。日進は村田、米沢の法大コンビが鋭い攻撃をみせたものの、この二人をマークされると動きがとまり、なかなかチャンスをつかめない。終始安定したペースで試合を進め、むらのない攻撃力をもった常盤の順当勝ち。日進が最後まで勝利への意欲を示したのは好感がもてた。　（小西博喜）

住友、本田技研をかわす

住友化学菊本 20（9－8, 11－8）16 本田技研

得	【本田】		【住化】	得
0	本田	GK	季原	0
1	池田	FP	神代	0
0	笠松	FP	上田	3
4	花井	FP	松井	0
0	小川	FP	長嶺	2
0	松岡	FP	加藤	7
7	大下	FP	北山	6
3	佐藤	FP	落海	2
1	後藤	FP	公文	0
0	松浦	FP	中野	0
16	（1）	7MT	（3）	20

【評】実力伯仲同士の試合で、勝負を分けるのは〃スキ〃だ。この試合も、前半20分すぎ9－7から本田技研の無警戒なパスを住友が出足よくカットして速攻。10－7、11－7と点差をあけた二度のプレーがそれである。パスワークを誇る本田技研にしてはうなずけないパスではあったが、それまでつねに先手をとられていたことと、大下（中京商高出）の絶妙な球さばきを相手に覚えられ、ディフェンスを固められたあせりによって生まれたものだろう。

逆に、その一瞬をついた住友の気力は賞される。どちらかといえば、大あじな展開に終始する実業団の試合にあって、このような微妙な瞬間が勝負の明暗につながるようになったことは、レベルの向上、充実を示すものだ。

住友の加藤（新居浜工高出）の抜群の攻撃力、本田GKの本田（堺工高出）のファインプレーなど織りまぜ、一進一退の接戦は大会切っての好カードといわれるにふさわしいものであった　（杉山）

宗形製作所 26（13－8, 13－4）12 日本鋼管福山

得	【鋼管】		【宗形】	得
0	石山	GK	南	0
0	黒田	FP	越智	5
1	中村	FP	多久	0
4	松村	FP	久保	1
0	尾崎	FP	中林	3
2	金高	FP	五味	3
0	市毛	FP	吉川	3
5	高橋	FP	辻	10
0	茅原	FP	坂本	0
		FP	栗沢	1
12	（0）	7MT	（2）	26

【評】鋼管福山の主力松村（下松工高出）中村（岡谷工高出）黒田（都立一商高出）は昨年まで鋼管川崎で活躍した選手、宗形への食い下がりが期待された。しかし開始30秒金高（小倉工高出）の好プレーで先制し、好調のスタートを切ったものの、その後は宗形の変化のある攻撃に押しまくられてしまった。

宗形は辻（小杉高出）が長足の進歩をとげ、吉川（桃山学院大出）久保（芝浦工大出）らからの好配球をあざやかなシュートで実らせていた　（杉山）

大崎、常盤に楽勝

▽準決勝

大崎電気 28（14－9, 14－5）14 常盤工業

得	【常盤】		【大崎】	得
0	渡辺	GK	福本	0
		GK	下里	0
9	高橋	FP	西村	5
1	片岡	FP	北村	3
1	桃井	FP	井上	3
1	吉金	FP	竹野	3
0	鳥村	FP	金田	3
0	大野	FP	宮田	4
1	峰岸	FP	加藤	0
1	赤堀	FP	小谷野	7
14	（3）	7MT	（3）	28

【評】常盤は対千代田戦（二回戦）でみせたような鋭さが全くな

く、善戦を期待したコートサイドを失望させた。大崎は2分、3分G福本（芝浦工大出）―宮田（国学院高出）の豪快なパスプレーであっさり先制、15分には10―1と開いて早くも〝安全圏〟。前半27分に主軸竹野（日体大出）がロッカールームへ消えたのをはじめ、後半は若手で臨む楽勝ぶりだった。

常盤は後半5分から高橋が連続4点を奪う強肩で9―15としたのが精いっぱい。力のあるチームだけに〝打倒大崎〟の執念をもう少し示してほしかった（杉山）

宗形製作所敗れる

住友化学菊本 18 (10―10 8―4) 14 宗形製作所

	【住友】	得
GK	季原	0
FP	神代	0
	上田	0
	松井	0
	長嶺	2
	加藤	9
	北山	4
	落海	3
	公文	0
	中野	0

	【宗形】	得
GK	南	0
FP	越智	3
	多久	0
	久保	2
	五味	2
	吉川	3
	辻	2
	坂本	0
	栗沢	2
	中林	0

14（1）7MT（4）18

【評】2―0とリードされた住友が前半5分30秒タイとし、そのあとは一進一退。住友は後半11―11から4分、7分（7MT）加藤、9分、14分北山（坂出商高出）がシュートを決めて15―11と初めて優位に立った。その後は宗形の反撃をすばやい帰陣で最少限の失点に食いとめ、国体二位の強敵を降した。

宗形はゴール前で巧妙なパスワークをみせたものの中央に集まりすぎ、波にのる住友のディフェンスを突破するにはやや単調であった。これにたいして住友はブロックプレーをまじえて多彩に攻め込み、加藤、北山がチャンスと見るや豪快に打ち込んだ。力のこもった一戦だった（杉山）

住友の攻撃、通ぜず

▽決勝

大崎電気 26 (12―7 14―5) 12 住友化学菊本

	【大崎】	得
GK	福本	0
	下里	0
FP	西村	4
	北村	6
	井上	2
	竹野	3
	金田	1
	宮田	7
	加藤	1
	小谷野	2

	【住友】	得
GK	季原	0
FP	上田	1
	松井	2
	長嶺	0
	加藤	8
	北山	1
	落海	0
	神代	0
	公文	0
	中野	0

12（0）7MT（2）26

〔評〕力、技、マナー、住友はこの大会屈指の好チームだ。しかし常勝大崎にたいしては、やはりスピード差がはっきりと出て、大崎は他の試合と同じよう序盤で勝利のメドをつけてしまった。

焦点は住友の攻撃が大崎の快速攻撃に通じるかにあったが、大崎の快速攻撃に機先を制されては、そのあと持ち味を発揮して得点を返しても〝散発的な反撃〟という印象しか残らなかった。しかし住友の最後まで力をふりしぼった攻防は、決勝戦としての格をじゅうぶんに備えたものとして、勝者よりも高く評価していい。

7連勝を飾り、この大会に第1回いらい無敗という快記録をたてた大崎電気は、その顔ぶれからみて当然の勝利といえたが、王座を守ろうという意欲、研究心は他チームも大いに学ばねばなるまい。またはなやかな俊足FP陣のかげにかくれがちだが、GK福本の円熟した技術は守備の堅さとともに、パサーとしての攻撃参加にますますさえをみせ、大崎連勝の大きな因となっていたことを、とくにつけ加えておきたい（杉山）

総評

不動!!大崎の堅城

山田仁止

男子

参加チーム三十二社、シード四チームが最後まで勝ち残り順当な経過であったが、その中で大崎電気の実力は抜群。予想以上に段違いの力を見せ、全くあぶなげない試合ぶりで七連勝を飾った。レギュラーメンバーの顔ぶれからみても当然なものだが、GK下里、宮田、加藤、小谷野ら新人の急速な成長は目を見はらせるものがある。竹野、福本らベテランの好リードで大チームの選手として恥ずかしくない技倆と気力を身につけた努力は賞され、実業団における大崎の堅城をさらに不動のものにしたと思われる。

その他特に住友化学菊本の活躍は大会に活気を呼び、エース加藤の柔軟なプレーは圧巻だった。チーム創設いらい国体、全日本総合など連続出場し、大会ごとに腕をあげてきた住友の努力に改めて敬意を表しておきたい。宗形、常盤も上位チームらしい力を備えていたが、常盤はリーダーの吉金は世界選手権の疲労のためか、大崎戦では実力以下の試合ぶりは気の毒であった。宗形は若い辻が有力なポイントゲッターに成長し、注目すべき活躍をみせ今後が楽しみ。

大崎を追うこれら三チームの向上は実業団球界の発展を裏付けるものであり、なお一層の研究精進を望んでおきたい。期待された本田技研は若さを暴露して敗れ、日本鋼管は主力が分散したのか予想外であった。日進商会、川崎車輌、三菱重工名古屋、自衛隊勝田、東海製鉄らの活躍が目立ったが、攻守のバランスに今一つ不足したものを感じられた。

技術的な印象としては、上位チームを除き各チームとも、ハンドリングの悪さ、パスコントロールの粗雑さ、シュートコースの甘さなどが目についたが、これらのテクニックは基本技であり、個々の努力で習得できるものであるから一層精進されたい。

女子

予想どおり三つどもえの激戦で、ハンドボールのおもしろさをあらためて知らされたような内容だった。

その激戦を勝ち抜いた田村紡のチーム力は心技ともに文句なく、二位の大崎はこの大会最好調とはいえなかった。大洋戦を堀の奮戦で拾い、その幸運で立ち直るかに見えたが、田村紡戦では終始相手ペースにのせられ、よいところがなかった。

若い大洋の健闘もみごとで、このまま伸びれば来シーズンはたいへんなチームになるであろう。愛知紡、三菱鉛筆も実力をぞんぶんに発揮したが、まだまだ物足りぬ面があった。（了）

〜

〜

田村紡好調のスタート

女子（5チームによるリーグ戦）

田村紡（三重） 14（7－0、7－2）2 三菱鉛筆（山形）

〔評〕 三菱の攻撃は全く単調で、ダブルポストプレーを使っても縦への切り込みがないため、後半4分までの得点をあげることができなかった。

田村紡はコートいっぱいに走りまくり、相手のディフェンスをくずしては小林、清水らがシャープなシュートを放って三菱をほんろうした　（浅野克彦）

大崎、後半に決める

大崎電気（埼玉） 15（8－6、7－4）10 愛知紡（愛知）

【大崎】	得
GK 川崎	0
GK 古谷	0
FP 笠原	3
FP 早川	2
FP 宇井	0
FP 黒川	3
FP 鈴木	3
FP 加藤	1
FP 堀	3
FP 小林	0
FP 木幡	0

【愛知】	得
GK 尾崎	0
FP 小林	4
FP 小野	1
FP 関口	4
FP 高橋	1
FP 近藤	0
FP 前田	0
FP 黒木	0
FP 五十嵐	0

10（4）7MT（3）15

〔評〕 愛知紡は小林、関口を主軸としてゴール前のローリングから小林のシュートで先行したが、大崎は鈴木の好判断によるボール回しでたちまち追いつきリードを奪った。

愛知紡はよく走ってはいたが、決め手に乏しく、小林をマークされると、その次の手段がとれない。また守っても、大崎の多彩なスピード、パスについていけなかった。しかし、昨夏、秋に比べると立直りのきざしがみえ、来シーズンは再び上位に食い込めそうだ。　（光嶋磯雄）

新保（大洋）好リード

大洋デパート（熊本） 11（8－5、3－1）6 三菱鉛筆

〔評〕 三菱は江川、蓮見らの攻撃陣がよく動き、互角に試合を進めたが、守りになると大洋のオープンプレーにディフェンスが広がり、中央からの攻撃を防ぎ切れなかった。大洋は新保の好リードで若い垂水、枝尾がうまく生かされ、実力どおりの試合ぶりをみせた。

田村紡、愛紡をふりきる

田村紡 12（5－2、7－5）7 愛知紡

〔評〕 田村紡のすべり出しはあまりよくなかった。このすきを愛知紡がつけば、もつれた試合になったろう。しかし攻撃が単調で、しかも消極的な突っ込みのためペースを奪えなかったのは惜しい。

後半田村紡はようやく本来のクイックプレーをみせ、後半11分速攻から小林がシュートを決めたのを口火に愛知紡をふりきった。

三菱、大崎に善戦

大崎電気 8（5－3、3－2）5 三菱鉛筆

〔評〕 三菱は大崎に自信をもっているようだ。昨年十一月の東京選手権決勝で大崎を降し、初優勝したことがその裏付けになっている。

大崎もそれを知ってか、慎重なスタートだった。しかしゴール前を激しい動きで攻めた大崎がしだいに得点を重ね優位に立ち、左右へのゆさぶりもよくサイドからのシュートも鋭かった。

三菱は蓮見にたよりすぎているようで、蓮見がマークされると、大崎のディフェンスを攻めあぐんだ。このあたりはチームの若さといってよいだろう。来シーズンの健闘が期待される　（小鳥居安彦）

大洋、若さで惜敗

田村紡 10（6－4、4－3）7 大洋デパート

【田村】	得
GK 渡辺美	0
FP 種村	3
FP 渡辺好	1
FP 水谷	0
FP 小林	4
FP 内藤	1
FP 清水	1
FP 長谷川	0
FP 甲村	0
FP 吉開	0

【大洋】	得
GK 小原	0
FP 新保	1
FP 垂水	0
FP 高山	0
FP 射場	3
FP 今村	2
FP 枝尾	1
FP 稲田	0
FP 木原	0
FP 三宅	0

7（0）7MT（0）10

〔評〕 三強激突の第一戦は期待にそむかず、好ゲームとなった。前半なかばまで大洋が追いつかれては離していたが、田村は16分渡辺好ゲットで初のリード。大洋も18分枝尾が返して再び同点。このあと、田村の中央攻撃を大洋ディフェンスが反則して7MTとなり、小林が決め5－4。終了間ぎわ再び小林が持ち込んで2点差をつけた。

大洋は後半のスローオフボールを得ていただけに、追いつくチャンスはあったわけだが、シュートに失敗。逆に3分、田村のポストプレーを許して7－4とされたのが結果的には敗因となった。田村紡がどのようなケースでも持ち味を発揮していたのに比べ、大洋には攻守とも若さがみられその差がスコアに現われたようだ　（杉山）

堀、劇的な逆転7MT

大崎電気 9（4－5、5－3）8 大洋デパート

【大崎】	得
GK 川崎	0
FP 笠原	1
FP 早川	2
FP 宇井	0
FP 黒川	1
FP 鈴木	2
FP 加藤	0
FP 堀	3
FP 小林	0
FP 木幡	0

【大洋】	得
GK 小原	0
FP 新保	0
FP 垂水	5
FP 高山	0
FP 射場	0
FP 今村	1
FP 枝尾	2
FP 稲田	0
FP 木原	0
FP 三宅	0

8（2）7MT（3）9

〔評〕 スタンドはもちろん経験

女子実業団チーム結成か

上田市のほてい屋デパート

長野県上田市海野町にある「ほてい屋デパート」で女子チーム結成の動きがある。これは大洋デパートの井監督が全日本実業団連盟に連絡してきたもので、同監督の話によると、ほてい屋デパートの経理部勤務の今井敏雄氏が大洋デパートに実業団女子チームについて照会があつたという。大洋デパートは、女子チームの現状を手紙で知らせたという。全日本実業団連盟は近く、ほてい屋デパートに関係書類を発送してチーム結成を促進するといっている。

四月に誕生か

宗形製作所女子チーム

大阪の宗形製作所は女子チームの結成を急いでいたが、二月六日同社の平川憲甫氏の話によると、四月福島県二本松ににチームが誕生するという。

揖斐川電気、来春に再出発

揖斐川電気女子チームは、峰岸監督が揖斐川上流の同社発電所の現場勤務のためチーム運営が困難となり休部しているが、来年四月に同監督の本社勤務を待って再出発するという。

豊富な大会役員席、記者席までもアゼンとさせたほど、劇的な大崎の逆転サヨナラゲームであった。

スコア8—8で残り1分。ボールをキープした大洋は19分19秒、全身の力をこめて放った垂水のシュートはGK川崎の好守にあって、一転—大崎の攻勢。当然のように強肩早川へボールは渡り、19分43秒ロングシュート。しかしGK小原の堅守を破れず、再び大洋ボール。

中盤から大崎ゴールへ攻め込もうとしたすきを宇井のカットにあい、大洋ディフェンスのタックルは7MT。大崎ベンチから7MT専門の代打堀がとび出したときは19分59秒と残りわずかに1秒。ベンチの期待をになった堀の一投は、GKの左肩口を突いてここに劇的なサヨナラ勝ちが決まったのである。殊勲者堀は前半終了まぎわ二つの7MTを決めて逆転の下地をつくっており、その冷静なスローイングと確率の高さは絶賛に価しよう。

それにしても大洋はあきらめきれぬ敗戦だった。前半は押しに押し、5—2とリードしながら最後1分間に二本の7MTで5—4。後半も15分8—6と優位に立ちながら、そのあと3点を失ったわけだ。チームの若さが何度も握った主導権を自ら捨てる結果になった。

しかし新保の好リードから新人ばなれした攻撃力を示した垂水の健闘をはじめ、チーム全体の気力は参加チーム随一といってよく、来シーズンは文句なく最上位に進出してくるだろう　（杉山）

愛知紡、三菱破り1勝

愛知紡 12（5—3、7—7）10 三菱鉛筆

得	【愛知】		【三菱】	得
0	尾崎	GK	吉田	0
5	小林	FP	三井田	0
1	小野	FP	鈴木	1
1	関口	FP	佐々木房	0
1	高橋	FP	落合	2
0	近藤	FP	佐々木洋	0
1	前田	FP	藤盛	0
3	五十嵐	FP	遠藤	0
0	黒木	FP	江川	6
		FP	蓮見	1
12	(1)	7MT	(6)	10

〔評〕ともに負けられぬ一戦。互角の戦況から勝負を決めたのは、後半10分8—8からの5分間。愛知紡が4点を連取したのに対し三菱は0。余裕の出た愛知紡は三菱の反撃を2点に押えて逃げ切った。

闘志が先走ってラフ・プレーも多かったが、愛知紡はようやく立ち直りのきっかけをつかんだようだ。一方の三菱も、大きな伸びが期待できる気力を感じさせたのは喜ばしい　（杉山）

大洋デパート三位

大洋デパート 14（6—3、8—5）8 愛知紡

〔評〕大洋は立ち上がりからすばらしいスピードで愛知陣に攻め込み、前半7分5—0と差をつけた。奮起した愛知紡もよく粘り、小刻みに得点を返して後半13分には8—7まで追い上げた。大洋もすぐに調子を取り戻し、愛知紡の攻撃を早いつぶしで止める一方、再びスピードのあるパスプレーで得点をあげ制勝した。大洋は試合中に調子の波が上下するのは今後の課題となろう　（鈴木四郎）

大崎、守備に破たん

田村紡 9（5—4、4—3）7 大崎電気

得	【田村】		【大崎】	得
0	渡辺美	GK	川崎	0
2	種村	FP	笠原	1
1	渡辺好	FP	早川	1
2	水谷	FP	宇井	0
1	小林	FP	黒川	2
1	内藤	FP	鈴木	2
2	清水	FP	加藤	0
0	長谷川	FP	堀	1
		FP	小林	0
9	(3)	7MT	(1)	7

〔評〕田村のすべり出しは好調。1分7MTを小林、3分速攻から水谷で2—0。

大崎もすぐ追い駆け4分早川が得意の左45度からクリーンシュート、5分黒川のゲットでタイ。さらに6分7MTを大洋戦のヒロイン堀があざやかにとって3—2と逆にリードした。田村はこのあとディフェンスを固める一方、反撃のチャンスをうかがった。クイックパスで大崎ディフェンスをくずしにかかり13分清水が同点ゲット、17分の7MTも清水が決めて再びリード(4—3)した。

大崎は18分笠原の判断のよいシュートでタイとしたが、余裕を取り戻す間もなく19分ロングパスからノーマークの種村に決められ、田村紡が1点の優位に立って前半を終わった。

後半、田村は1点のリードにゆとりが生まれたのか積極的な攻撃で大崎ディフェンスを襲い、6分渡辺(7MT)7分種村がゲット7—4とした。大崎も10分鈴木のゴールで逆転の夢をつないだが、ディフェンスの甘さは直らず16分内藤、17分水谷に鋭いシュートを浴びせられて4点差とされ、そのあとの速攻による2点も〝最後の抵抗〟でしかなかった。

田村紡の勝因は多彩な変化をみせた攻撃力にあるが、守っても早いつぶしで大崎のパスコースを封じた。特に強肩早川をマークした水谷の出足のよい動きは全く見事だった。また、チーム全体の試合展開力に一段とうまさが加わったのも特筆してよかろう。

この結果、今シーズンの女子全日本4大タイトルは田村紡が国体、全日本実業団、大崎が全日本総合、全日本選抜と二つずつ分け合うことになった。　（杉山）

会長に鈴木副会長

ハンドボール協会内定

日本ハンドボール協会は二月十八日午後東京・代々木の岸記念体育会館で会長選考委員会を開き、空席だった会長に鈴木達雄副会長（五十六歳、会長代理）を推薦することに決めた。

正式には二十六日に開かれる全国評議員会で承認のうえ決る。

鈴木氏は昭和八年東大経済学部卒、レナウン工業相談役。

（朝日新聞から）

☆　☆

TAD.

汝の敵を愛せよ

画・安達忠良

球界パトロール

望みのないアジア大会参加

昨年12月タイの首都バンコクで開かれた第5回アジア競技大会は、連日日本勢が金メダルを飾る景気のいい大会となり、同大会への関心を高めたが、以前から国内ハンドボール界の一部にハンドボールのアジア大会参加を望む強い声がある。

アジア大会の新競技追加については、AGF（アジア競技連盟）憲章によってAGF評議員会の決定が必要で、それ以前の手続きとして参加申請がいずれかの国から提出しなければならない。第5回大会に先立って同地で開れた評議員会でも、現在日本から申請されている柔道をはじめラグビー（セイロン）ヨット（フィリピン、タイ）ソフトボール（フィリピン）の4競技追加について協議された。

この4競技については2年後に開かれる評議員会で再検討されるが、ハンドボールがここで新しく名乗りをあげたとしてもその参加は非常にむずかしい。AGF加盟国のなかでハンドボールを実施しているのが日本、韓国、イスラエルの三カ国にすぎない。非加盟国で実施しているのも中国だけで、仮に将来中国がAGFに加わったところで有利な局面とはなるまい。

率直にいって、アジア大会にハンドボールが参加することは全く望みがない。日本協会としても、アジア大会参加に積極的な態度を示したことはなく、一部の意見だけに陥っているのが現状だ。韓国、イスラエル指導者の意向を開く機会に恵まれなかった。しかし、オリンピック東京大会の種目削減理由の一つとして「アジア地区での未普及」があげられたことを記憶されているかたは多いハズだ。

アジア大会参加という目標はさておき、日本、韓国、イスラエル三国間の関係を密にして、アジア地区にハンドボールの種まきを考えてもよい時期ではなかろうか。

（杉山NHKアジア大会特派員）

フランスの登録選手数

近着のフランス・スポーツ紙「レキップ」によると、1965年フランスのハンドボール選手の登録数は27・253人である。これは1958年に比で84パーセントの増加で、フランス・スポーツ界では6番目の増加率である（スキーは300パーセント）。

年	人数
1958年	14.836
59年	22.256
60年	24.014
61年	24.014
62年	25.148
63年	24.462
64年	25.432
65年	27.253

—・—

—・—

実業団連盟だより

全役員が留任
第八回大会は男女別開催

全日本実業団ハンドボール連盟は二月五日夜、名古屋市の国際観光ホテルで定例理事会を開いた。（出席者）古賀会長、渡辺理事長、小杉常務理事、鈴木監事、的場日本協会常務理事、田中愛知県実連理事長、オブザーバーとして野原大阪府協会長、栗脇愛知県協会理事長、亀岡成昌（愛知紡）平川憲甫（宗形製作所）の十氏。

一、役員改選

会長、副会長、理事長、常務理事、監事は全員留任とする。理事のうち河内文雄氏（三菱重工業名古屋自動車製作所）の代わりに田中滋章氏（タヨシ産業、愛知県実業団連盟理事長）を、また関東実業団連盟理事長の平出一氏（日進商会副社長）を選出した。

二、実業団連盟から日本協会へ理事二人を送り出す件

日本協会の新規約は昭和四十二年度から適用される。したがって日本協会の理事となる二人を実業団連盟から選出しなければならない。これについて協議した。発言要旨次のとおり。

小杉常務理事　日本のハンドボール界をよく知っている人で、しかも理事会でよく発言できる人が望ましい。その意味において渡辺理事長に日本協会の理事になっていただいた方がいい。他の一人は渡辺理事長に一任したい。

野原大阪府協会長（オブザーバーとして参考意見）　渡辺さんが日本協会の理事になるのは反対である。その理由は、理事会にはいると日本協会への批判勢力がなくなるからだ。批判勢力があった方が球界発展につながる。渡辺さんは評議員会で意見を述べた方が、すべての面でプラスになる。

栗脇愛知県協会理事長（参考意見）　もし渡辺さんが実連選出の理事となった場合のことを考えると、理事互選で理事長に選任されることがありうる。こういう情勢になったら私は反対する。

小杉　もし渡辺さんが理事となり、理事長に選ばれたら、そのときに理事長就任を断わればいい。

渡辺理事長　私が日本協会の理事になるかどうかは、東京都協会に持ち帰って検討したい。しかし理事になった場合、東京都協会評議員、日本協会理事、日本協会理事長、全日本実連理事長の四つの役職につく。これは考えもの。また理事長の話が出たが、日本協会の理事長には競技出身者がなるのがいちばんいい。

結局、この件は結論が出ず、近く渡辺理事長が東京都協会長として東京都協会常任理事会に報告したうえで態度を決めることになった。

三、第八回大会の開催地の件

渡辺理事長から「チーム代表者会議の席上、大洋デパートの井監督から熊本県協会を代表して、来年の第八回大会を熊本市で開きたいむね申し入れがあった。また愛知県実連からも、もう一回開きたいと立候補を表明した。昭和44年の第9回大会には関東実連から横浜市開催を申し入れた」と報告した。この会議に出席していたオブザーバーの平川憲甫氏（宗形製作所・大阪）からも「名古屋市の次はぜひ大阪市で開きたい。近畿ブロックは、いま実業団4チームの普及途上にあり、だいじな時期である。ことしは近畿実連を結成するので、このチャンスを逸したら実業団チームの意欲が減じる」と強く開催を要望した。古賀会長、小杉常務理事から「東海、近畿両地方のチーム数をふやすため、この両地区でもう一度開催した方が有意義であると思う。熊本県協会が開催を一番先に申し入れてきたが、熊本県協会のご好意に感謝する。熊本県協会にお願いするのは次の機会にしてはどうか」と発言。慎重に協議した結果、大阪市か名古屋市のいずれかで開くことを決定した。

またこの席上「男女を分けて大会を開き、女子を熊本市で開催したらどうか」との意見もあったが、将来はその方向に持っていくということで、次回開催地の件を打ち切った。

大会期間中、関係者と意見を調整した結果、男子は大阪（2月10日－14日）女子は熊本（2月7－11日）と内定した。

四、優秀選手表彰の件

渡辺理事長から「ことしから、全日本実業団選手権大会のベスト7（男女）を表彰することにした」と報告、各役員はこれを承認した。選手選考委員には渡辺理事長、若崎日本協会審判長、山田大会副審判長、栗脇愛知県協会理事長、安藤（東京）光島（大阪）小西（京都）の各審判が選ばれた。（了）

☆　☆

新役員名簿

（42.2.5 現在）

役職	氏名	所属
会長	古賀和佐雄	千代田印刷機製造株式会社社長
副会長	田村　正衛	田村紡績株式会社社長
	岡野　正実	岡野バルブ製造株式会社社長
	山岡　憲一	東京重機工業株式会社社長
理事長	渡辺　和美	大崎電気工業株式会社社長
常務理事	小杉　仁造	愛知紡績株式会社社長
	山口　亀鶴	株式会社太洋社長
	数原　洋二	三菱鉛筆株式会社社長
	須崎　潔	揖斐川電気工業株式会社社長
監事	山内　清次	常盤工業株式会社社長
	鈴木　達雄	レナウン工業株式会社相談役
理事	古賀健一郎	千代田印刷機製造株式会社専務
	黒川　正雄	レナウン工業株式会社人事部長
	宗形　年閤	宗形製作所社長
	三谷　賢治	自衛隊市ケ谷第32普通科連隊
	高橋　俊一	盛岡市役所
	佐藤　道治	住友化学工業（株）菊本製作所
	田中　滋章	タヨシ産業株式会社
	平出　一	日進商会副社長

男女の日本リーグを
将来は登録の一本化
実業団チーム代表者会議

全日本実業団ハンドボール連盟は二月五日午前十時から愛知県体育館で、実業団選手権大会出場チームの代表者を集めて「代表者会議」を開いた。

〔出席者〕▽連盟関係　古賀和佐雄会長、渡辺和美理事長、鈴木達雄日本協会副会長、栗脇嶷愛知県協会理事長、田中滋章愛知県実業団連盟理事長。

▽チーム代表者　竹内清二（北陸電力）永井敏郎（日本碍子）岡部正文（日本鋼管川崎）小泉武（三菱油化）能見武盛（小松製作所粟津）平出一（日進商会）高山（同）熊沢勝（東海製鉄）坂田純造（丸善石油）勅使川原和雄（常盤工業）天野久（静岡日野自動車）立花彰（川崎車輌）村田（同）富永劭（自衛隊勝田）金藤紘一郎（大同製鋼）西村亮治（同）緒方逸雄（昭和染工）平子文敏（三菱重工名古屋）井薫（大洋デパート）鷹見陽平（宗形製作所）

◇報告事項

一、関東実業団ハンドボール連盟が昨年十一月五日に設立した。会長には数原洋二氏（三菱鉛筆株式会社社長）理事長に平出一氏（日進商会副社長）を選出した。事務所は横浜市南区南太田町一―四〇。日進商会内。

◇協議事項

一、日本リーグについて

立花彰氏（川崎車輌）から「四十二年度に日本リーグを開催できるのかどうか。その見通しについて質問した。これにたいし渡辺理事長は「日本リーグの開催について「四十一年度は開催を中止したが四十二年以降ぜひ実施したいと思っている。しかし現在は日本選手権大会が多すぎるので、これをあるていど整理しないと男女の日本リーグ運営はむずかしい。日本協会の新しい執行部が誕生すれば、すぐ協議していきたい。日本リーグを開くには男女をやりたい。そのためには男子については学連チームの参加がないとできない。学連チームがはいらない限り、日本リーグの意味がない」と説明した。

一、実業団選手権大会について

立花彰氏（川崎車輌）　いまの実業団大会はシード制がひかれている。シードチームと当たった場合、早いうちに負ける。どのチームも決勝へ行けるという希望を持たせるため、シードをやめてほしい。一試合でも多く試合ができることは、社内におけるハンドボールのPRのためにいいと思う。また敗者チーム同士での試合も必要と思う。

渡辺理事長　将来はベスト4を日本リーグに回す方向に持っていきたい。日本リーグの実業団チーム最下位と全日本実業団選手権大会のチャンピオンチームとの入れ替えるのがいい。希望に沿えるようにしたい。

田中滋章氏（愛知県実連理事長）　男子が三十二チーム以上になった場合、日数その他について全日本実連で考えてほしい。

渡辺理事長　検討する。

鈴木日本協会副会長　日本協会の組織そのものに欠陥がある。私は不満に思っている。学連、実業団連盟、高体連の三本の柱との結びつきがないようだ。新しい会長、理事長が決まればこの三本の柱と密接な連絡をとっていけば、すべてのことが円滑にいく。そうあるべきである。

一、登録の件

鷹見陽平氏（宗形製作所）　実連は日本協会の下部組織なのかどうか。全日本実業団選手権大会に出場する場合、日本協会のほかに実連にも登録しなければいけないことになっている。登録は一本でいいのではないか。

渡辺理事長　都道府県協会は日本協会の下部組織であり、実連、学連、高体連は加盟団体である。都道府県協会はタテ、加盟団体はヨコの線である。実業団連盟は発足まもないので登録制度にしているが、将来は日本協会へ登録すれば自動的に実連へも登録される仕組みにしたい。

一、次回開催地について

井薫氏（大洋デパート）　私は熊本県協会を代表し、次の大会を熊本県に招致したい。

鷹見陽平氏　大阪府でも開きたい。実業団チームが多いので、ぜひ招致したい。

田中滋章氏　愛知県としては、熊本があまりにも遠いので、愛知の実業団チームのためにも名古屋を申し入れる。

平出一氏（関東実連盟理事長）　四十四年の第九回大会を横浜市で開きたい。

渡辺理事長　次回開催については、諸君の申し入れを午後の理事会に提案して決めたい。

一、その他

能見武盛氏（小松製作）　大会要項の発送がおそい。もっと早くしてもらわないと、社内手続きができない。次回からもっと早めに発送してほしい。

渡辺理事長　次回からそのようにする。発送が遅れたことをおわびする。

（男子四十三チーム）

北陸電力福井支店（福井）富士レジン工業（兵庫）川崎車輌（兵庫）静岡日野自動車（静岡）出光興産徳山（山口）和同建設（神奈川）丸善石油下津（和歌山）三菱重工名古屋（愛知）住友金属和歌山（和歌山）東京三洋電機（群馬）住友化学菊本（愛媛）日本発条（神奈川）安田生命（東京）三井石油化学（山口）小松製作所粟津（石川）日立製作所日立（茨城）京都信用金庫（京都）原子力研究所（茨城）自衛隊勝田（茨城）東洋レーヨン愛知（愛知）自衛隊体育学校（埼玉）秋田市農業共済組合（秋田）日本鋼管（神奈川）中部電力（愛知）東海製鉄（愛知）タヨシ産業（愛知）光電工業（群馬）三菱レイヨン大竹（広島）日東電工（大阪）盛岡市役所（岩手）日本鋼管福山（広島）武田薬品（山口）本田技研（三重）日新製鋼（広島）日進商会（神奈川）三菱油化（三重）昭和染工（愛知）大崎電気工業（埼玉）千代田印刷機製造（東京）宗形製作所（大阪）常盤工業（岐阜）大同製鋼（愛知）日本碍子（愛知）

（女子八チーム）

三菱鉛筆（東京）東京重機工業（東京）レナウン工業（東京）田村紡績（三重）揖斐川電気工業（岐阜）愛知紡績（愛知）大崎電気（埼玉）大洋デパート（熊本）

時評

男女別開催の声

実業団連盟が研究

二月五日、名古屋市で開かれた全日本実業団ハンドボール連盟理事会で「男女を分けて大会を開いたどらうだろう」という声があった。これはグッドアイデアである。バレーボールは実業団も大学も同じ期日に関東、関西で男女を分けて大会を運営している。つまり関東で男子を、関西で女子というわけ。バレーボール人口は多いので、ハンドボールをそのまま当てはめるのは危険な話だが、すばらしいゲームを一人でも多くのファンに見せてもらうためには、男女別開催がいいのではないか。これがハンドボールの底辺拡充に役立つのだったら、一つやってみたらどうだろう。

この会議の席上「グッドアイデアにはちがいないが、大会運営の面で少し無理があるのではないか。もう少し研究してみようではないか」ということに落ち着いた。たしかに二会場になると、経費の面で苦しくなる。連盟自体そう財政的に裕福でない。今度の名古屋での大会には実業団連盟から二十万円を補助し、このほか雑費として約五万円支出している。これが二会場になると、約五十万円の大会費用となる。年間六十万円の予算では、どうソロバンをはじいても苦しい。しかし実業団連盟が〝二会場〟案を打ち出したのはヒット。来年二月の第八回大会は従来どおり一会場ではあるが、これを機会にこのアイデアを生かし、近い将来にはぜひ実現してほしいものである。（その後、大会期間中に意見調整した結果、男子は大阪、女子は熊本で開くことに決まった。まさに満塁ホームランである）

二会場の試案としては、男子はチーム数の多い関東、東海、近畿、中国、女子は関東、東海、それに大洋デパートのある熊本、近く宗形製作所（福島）に女子チームができるので東北を加え、輪番制開催がいいのではないか。さらに女子の場合、参加チーム数が少ないので、底辺拡充の意味で山陰、信越、北陸地方での開催も研究課題の一つとなろう。そうなったときは、実業団大会はさらに大きく飛躍する。各オーナーが自分の連盟、自分たちの大会をりっぱなものにしようという意気込みには敬服する。

日本協会の加盟団体の三本の柱（実業団、学連、高体連）の中心である実業団連盟が、日本ハンドボール界の〝機関車〟となって突っ走ることを希望しておく。これが基盤となって、やがては「日本リーグ」の実現となろう。実業団連盟の存在は実に大きいものがある。ミュンヘン・オリンピックへのスタートと見立てたら言いすぎだろうか。学連も高体連も、この実業団連盟を追い抜くようファイトを出してもらいたい。これはハンドボール愛好者の夢である。

（幸）

楽書き帖

娘1人にムコ3人

鷲尾武治

〇…二月五日に愛知県体育館の食堂で全日本実業団連盟主催の「チーム代表者会議」が開かれた。これには古賀連盟会長、渡辺理事長ら実連関係者が出席した。来年二月の第八回大会をどこで開くか―これにはまず熊本県協会が立候補し、次いで第九回大会（昭和44年2月）に関東実業団連盟が横浜市で開きたいと発言した。ところが愛知実業団連盟から「いま愛知県は実業団の普及途上にあるので、来年も開催したい」と立候補した。そこまではよかったのだが、同日夜の連盟役員会に出席した宗形製作所（大阪）の平川憲甫君から「来年の大会はぜひ大阪市で開きたい。近畿地方もいま発展途上にあり、とくに42年度には近畿実業団連盟を結成するので、その記念事業としてやりたい」と遅ればせながら立候補。そこでたいへん。娘一人にムコ三人（熊本、名古屋、大阪）ということになり、どこで開催したらいいのか役員らは頭をかかえる始末。

結局役員会としては「熊本が一番乗りしたが、大阪、名古屋が実業団チーム普及を前面に押し出してきたので、熊本開催は次の機会にお願いすることとし、大阪、名古屋の両者でよく話し合った結果、2月15日までに回答してほしい」ということになり、二時間にわたる〝ムコ三人〟はやっとケリがついた。

〇…第七回全日本実業団選手権大会が名古屋で開かれたので、二、三日観戦してきた。愛知実業団連盟理事長の田中滋章君の話だと、名古屋市内の小学生の試合を織り込んだというので、これを楽しみにしていた。二月四日の土曜日に準決勝、五日に決勝戦のスケジュール。少年少女が元気いっぱい走り回っていた。10分ハーフの試合だったが、おとな顔負けのプレーを展開してファンを喜ばせた。小学校でドッチボール、ポートボールをやっているせいか、パス、キャッチ、スローイングはなかなかうまい。36メートルのコートをすみからすみまで利用している。これには驚いた。小さな女の子がドリブルしながら左45度あたりから力いっぱいワンバウンド・シュート。ゴールインである。友だちが手をたたくと、自分から握手を求める。これを見ていた若崎審判長は栗脇愛知県協会理事長に頭を下げていわく「愛知県協会の努力には感謝する。実は私は神奈川県に小学生ハンドボールをつくろうとしたが、どうしてもそこまでいかなかった。中学校への普及だけでもたいへんなのに、よく小学校までめんどうをみている。ハンドボール王国はやっぱり愛知県だね」―これを聞いていた栗脇理事長は、ただニヤニヤするだけ。とにかく関係者の努力には敬服します。現在13チームあるとか。

☆ ☆

日本協会に望む

相互間の和

全国高体連ハンドボール部
副部長 徳永陸繁

日本ハンドボール協会が設立されてから、ここに創立三十周年を迎えようとしている。他のスポーツ団体からみれば歴史的に浅いが、普及度は年々深まって今やゴール寸前に迫った感じである。現在に達するまでにははかり知れない苦難の時代もあったが、これはすべて関係諸君の並々ならぬ努力のおかげである。

いまやミュンヘンのオリンピックにハンドボールが正式種目となり、ますます発展の一途をたどろうとしている。この重要な時期に式場隆三郎前会長の死去、また関係者同士の意見の対立から高嶋理事長辞任を招き、協会内の混乱を遂に表面化してしまった。これはなんとも残念なことであった。いままでの努力をむなしいものにしてはならいなはずだったが——。このことがあっていらい、関係理事は、一刻も早く協会内の紛争を最小限に食いとめるよう、安定策措置として、合議制によって任期改選までもっていくことになった。

今後の日本ハンドボール協会に望むことは、いろいろなことが言えるが、相互間の和ということではないかと思う。最も簡単なことだと思いますが、実は相当なむずかしさを伴うわけである。これは人間関係がうまくいくことにより、大きな障害も小さいうちに取り除くということであろう。

ハンドボールの発展を大所高所から考えるとするならば、各々の組織的な問題でも、末端に至るまでの人間的な和を組むことでなければならぬと強調したい。以上のような観点からも全面的な改選が必要であると思われる。きわめて困難なことであるが、このさい真剣に考えなければなるまい。これまでのような不徹底な独裁的なチームプレーでは本来の目的は果たせせない。

日本協会に望む

若年層への指導

宗形製作所
専務 宗形守敏

現在のアマチュアスポーツ界を見ますと、最近とみにサッカー、バレーボールのスポーツ人口の伸張、一般大衆のアマスポーツへの関心度が高まりつつあります。東京オリンピックを契機として、アマスポーツの持つだいご味を国民全体に浸透させた意味からもオリンピック東京大会は大成功であったことは事実です。

他方、前者のサッカー、バレーボールなどが単にオリンピック種目であったことのみで、今日なお発展し続ける要素になったかと申しますと、一考せざるをえないと思います。なんらかの魅力、一般大衆をひきつけるものが潜在していたはずです。それが競技におけるスピード感であるかもしれません。また技術を超越したプレーにあるかもしれません。しかし本来、一つのスポーツは"走る"、"飛ぶ"、"投げる"という三要素を含んでいるものです。ハンドボール競技も全く例外でありません。

こういう意味からも、ハンドボールがじゅうぶんに国民全体に愛好されるスポーツとして人気を独占しても当然でしょうが、現状はどうでしょうか。費用の面、要する人員、競技設備、そして最も要求されるスピード感も前者と比較し、容易に大衆のなかに浸透してもよい条件を備えているのです。PR不足、底辺の狭さと若年層への指導者など、より一層強化する必要があると考えます。実業団チームにおいては、その会社全体のハンドボール競技への理解を積極的な競技への参加意識など、われわれに与えられた使命もあるわけです。

幸い、1972年ミュンヘン(西ドイツ)でのオリンピックに正式種目として決定している今日、日本協会の一層の精進を期待します。

—日本協会に望む—

将来の指標を示せ

愛知県実業団連盟
理事長　田中滋章

従来の日本協会は地方球界の知識に非常にうとかったのではないかと思う。日本協会は地方球界がいかにあるべきかという指導的な立ち場にあるのだから、常に将来の指標を示して地方協会の進路を決めていただきたいものと思う。たとえば、われわれ愛知実連は県内リーグ戦を八回、東海ブロックの実業団選手権大会を二回開催したにもかかわらず、この先どのように発展させていったらよいのか皆目見当がつかない。

したがって個人的な主観で進めているにすぎないため、以前全日本実連が結成されるさい、いろいろと摩擦が生じたのである。それは既存の愛知実連の実体を調べないうちに全日本実連の設立総会を開こうとしたからである。われわれとしては、それによって愛知実連が崩壊するのではないかという心配を生じたからに他ならない。

日本協会が国際的に強力なチームをつくる使命があるように、地方協会はハンドボールを普及させる使命を持っている。

しかるに現状では各都道府県がマチマチにやっているため大きなアンバランスが生じている。これは日本協会に一貫した指導方針がないからである。愛知県の場合、既存する実連、クラブチーム連盟、あるいは四十二年度から始めようとする愛知選抜リーグなどの上との連がり、横との連がりをどう処理するのか。早く三ヵ年計画、五ヵ年計画のようなものを発表してもらいたいものである。

また地方のわれわれにとっては、中央の考え方などがよくわからないので「ハンドボール」誌上にでも質問欄を復活し、明快に解答してほしいと思う。それに他府県協会のあり方、収支の取り方などルポ記事的をとり上げていただければ非常に参考になると思う。

—日本協会に望む—

愛好者へのサービス

北信越学生連盟
理事長　若山　博

私が申し述べるまでもなく、あまりにも多く山積された問題があり、これを一日も早く解決してもらいたい。このなかで、とくに早急な解決を要するものに、底辺拡大のポイントである中学校体育指導要項の復活、オリンピックを目ざしてのナショナルチームの対策、高等専門学校の取り扱いなどがある。これ以上に重要な会長、理事長の後任問題をかかえている今日、精神的にも実質的にも協会の代表者であり、指導者である会長を決め、理事長を選出し、和をもって協会組織の再強化をなし、高い指導理念と方策を確立し、正常な協会の姿を早くみせてほしいと思います。

7人制に切り替わっていらいハンドボールは実に高度な技術の発達と相まってスピーディなゲーム運びとなり、見ても、そして自分でやってもおもしろい要素を増してきたと思います。これに伴って観衆のゲームにたいする予備知識が豊かになるとともに、その批判も高度になってきていると思う。これが普及発展のために重要な役割りをなすのだから、あらゆる意味においてハンドボール愛好者へのサービスを忘れてはならないと考えます。

この点から毎年夏に開かれている全国大会の会場では、なわ一本でグラウンドと仕切り、すわる場所のない一般席、ことに対象的に本部とベンチだけがテントの中、せめて簡易スタンドぐらいはつくれないものだろうか。

審判技術の面においても観衆、選手に納得のいくようにさらに研究協議し、審判のワイヤレスマイクの使用などによって観衆にゲームの進行を伝えることも必要かと思う。テレビ中継の回数をふやし、これによって好試合を見る機会の少ない地方の愛好者に刺激を与えるものと思います。

世界に誇るこのマーク

あなたの工場を合理化する
　工業用ミシン．プレス．縫製附帯設備．電子機器
あなたのご家庭を設計する
　家庭用ミシン．編機．電気掃除機．冷蔵庫

東京重機工業株式会社

ことしの目標

全国大会に勝つこと

都城工高（宮崎）監督　松田丈二

都城は、九州といっても霧島のふもとにある。冬の寒さはきびしい。われわれの手で懸命につくったハンドボールコートも霜柱でぼこぼこ浮き上がる。夏の暑さは、それはまたきびしいものがある。当地方は盆地であり、とくにその暑さは耐えがたい。

そのなかでチーム結成いらい、手さぐりながら練習を重ねてきた。昨年のインターハイ（盛岡）に初出場、楽しく苦しかった真夏の合宿。ことしもまた昨年以上に苦しい一年であろう。しかし都工健児はそれに耐え忍んでがんばっている。目標は全国大会に勝つことだ。

都城工高チーム

上位入賞目ざす

大分東高（大分）監督　川西良広

私が本校に着任して四年目、クラブが創立してから五年目。着任三年目で大分国体ー期待する成績もあげられず、残念に思っている。ことしこそは……と地道な練習を積んでいるが、いつ栄光への道が開かれるか。普通の練習ではとうてい追いつけそうにもない。そのためには強い体力と精神力が必要であり（１）基礎体力づくり（２）機動力（３）守備の向上ーに重点を置こうと思っている。ことしこそは九州大会優勝、全国高校大会、国体の上位入賞と、新年早々の抱負は大きいが、どれだけやれるか、いささか鼻息が荒い。

来年のために…

菊池農高（熊本）監督　荒木時弥

42年度の目標「43年度にインターハイ優勝を果たすための練習をする」これが三度目の国体優勝を遂げた夜に、二年一人、一年生十人の新人チームに示した目標である。この五年間、毎年インターハイ優勝をねらったがだめ。どうにかして一度でよいからタイトルを取りたい、そのために、ことし一年はインターハイ出場ができなくてもよいから、徹底的に基礎技術の習得と基礎体力の養成だけを考えてやってみたい。

飛躍の年に

熊本県協会理事長　藤田八郎

協会設立二十周年を迎え、二十年の歩みを反省し一段と飛躍した年にしたい。念願の国体総合優勝を目ざし、左記の目標で実行に移す。

（１）二十周年記念行事および記念誌発行

（２）技術の向上を目ざし中学ハンドボール教室の開催。加盟全チーム参加の合同強化合宿練習

（３）加盟チーム増。高校男子20、高校女子15、男子実業団チームの加盟。

夢よ!!もう一度

明善高（福岡）監督　荒木英之

高校女子界においては「九州を制するものは全国を制す」ということばがある。これは熊本市立、明善、菊池農の数度にわたる全国高校、国体優勝の実績でりっぱに立証されている。したがって第一目標は、まず九州を制覇することである。最近、大分東の台頭により熊本、大分、福岡の三どもえ戦の様相となった。

昨年はライバル菊池農に惜敗したが、ことしはひと泡吹かせたい。全部新人に切り替わったので、多少の不安はある。伝統の闘志と猛練習でカバーし、春の大洋デパートとの合宿、熊本市立高定期戦などを通じ、漸次実力を養い「夢よもう一度」のことばのとおり九州を制覇し、余勢を駆って全国制覇を目標に、十三人の部員一丸となってトレーニングに精進している。

全国大会へ

若松高（福岡）監督　日野博

本校は四十年二月に部として発足しました。昨年全国総合体育大会に出場し、部創立一年にして福岡県大会で優勝できました。私の指導方針は人格の形成とスポーツを通じたよい社会人となるように指導しています。私の二十年からなるハンドボールの経歴から得た技術と精神力を部員とともに研究し指導しています。ことし一月に開かれた福岡県室内選手権大会高校の部で二年連続優勝しました。ことしも全国大会を目標に指導と研究を続けますが、部員のほとんどが進学希望のため練習時間が少なく日曜日を利用します。平日の

ことしの目標

練習時間は一時半から二時間の短時間ですが、その時間は血と涙の時間です。しかし昨年はその猛練習と用具不足のなかで部員の目標である全国大会出場権を得たのです。

普通高校の進学にたいする悩みと、三年生は八月の全国大会後の国体予選には出場できないのが現状です。新チームの目標である全国大会出場を目標に練習に励みます。

前進あるのみ

新居浜工高（愛媛）監督　高橋満年

愛媛県新居浜市でハンドボールが始まってから二十年――わが校独特のチームカラーができた。新居浜市の中学校にはハンドボール部はありません。高校入学後クラブ活動を始めますが、出発点からの立ち遅れは致命的です。これをなんとかして育て、高校生らしい清潔な、そして最後のホイッスルまで闘志あふれる試合ができるチームにしたい。このためには焼けつくような真夏のグラウンドに「先輩に続け」の合いことばで休みもなく練習を重ねてきた。

ふりかえってみると、栄冠は精進と努力以外に絶対にないと痛感した。最近の高校ハンドボールは長身者が目だってきた。小粒ぞろいのわがチームは、その身長差をピリッとしたスピードで補いたい。チームプレーに徹し、ただ前進あるのみ。

私のスローガン

新居浜西高（愛媛）監督　玉田貢

目標はだれもが優勝を願っている。さて地方では普及の途上、悪条件につちかって部の充実を保ち、一つ一つ解決し、毎日の鍛錬に耐え抜くだけの精神力をもつ人間をと、日常生活、練習を通して指導している。あらゆる条件を克服しなければなりません。

全国高校大会、国体を観戦して痛切に感じたことは（1）スピード（2）ボールに対する執念（3）瞬発疾走と耐久力をつける（4）対戦回数をふやす（5）試合の駆け引きと機敏性の養成（6）ボールを持ってからの視野を広く、明確な判断で処理する――ことである。私はこれをスローガンとしたい。ことしは小粒なので、応じた戦法を練りたい。

県大会優勝を

下関中央工高（山口）監督　槙敏夫

毎年インターハイ、国体での上位進出を目ざしているが、年々選手が交代していく高校では伝統を維持していくのに精いっぱい。昨年のチームから、より以上の技術と体力を望み、努力するのみである。その結果が上位入賞となったり、あるいは力及ばず敗退することもあろう。

ことしのチームは中学時代の経験者が一人もいないうえ、昨年のレギュラーが全員卒業なので、ずいぶん苦労すると思う。しかし強敵の多い県大会での優勝に目標を置き、努力してみたいと思っている。

ベスト４へ

修道高（広島）監督　平田幸男

四十三年度の全国高校総合体育大会が広島市で開かれるので、監督も選手もいままでになく強化に目の色を変えている。過去インターハイ、国体など数多く出場したが、最高の成績が四回戦で敗れている。原因は精神力と体力が一致せず、技術面が半減したことだ。ことしは体力づくりに重点を置き、どんな状況下でもフルに技術が発揮できるチームをつくりたい。

目標はあくまでも全国ベスト４に突入することである。結論的にいうならば「パワー養成プラス頭脳的ハンドボール」を身につけることである。

全国大会で一勝を

境高（鳥取）監督　高木敏行

山陰地方にハンドボールの芽が出て三年―どうやらこうやら一人歩きができるようになった。これからは今一歩前進させるために、また毎日がんばっている選手たちにいまいちばん与えてやりたいものは『やればできる』という根性である。そのために、全国大会で男女そろって一勝をあげたい。この一勝が二勝にも通じ、山陰地方にマイナースポーツとされたハンドボールを、われわれの手で日の当たるところに出すことになる。これが毎日毎日がんばっている選手たちにどれだけの力となり、ささえとなるかはかりしれないものがある。

一歩でも早く

山陽女高（広島）監督　片岡賢二

新しい希望と期待とを心にする時季となった。毎年のことながら

全国上位の壁は厚いが、ことしこそ心技の充実した年としたいものだ。幸い昨年に比してチームは大型となった。反面、種々の難点もあるが、この有利な体力こそ期待の基盤と思う。より効果的な方向としたい。常識的であるが、一歩でも一秒でも早くという目標で、県大会から着実に実績を残していきたい。

勝敗の運は「努力と練習」があってこそ実現するのだという精神が浸透し、意欲あるクラブとなることを目ざしている。

ことしの目標

―全国大会出場―

児島高（岡山）監督　楠戸榛也

わが児島高ハンドボール部は四十二年二月、部員十二人で同好会として誕生した。ちょうど満二年になります。数多い悪条件のなかで、自主的に入部した生徒が楽しいムードのなかで短い練習時間をくふうして練習を重ねてきました。四十一年一月県新人大会で初優勝、六月の全国高校大会県予選で二度目の優勝をし、宿願の全国大会に出場しました。県のレベルが低調なため多くは望めないが、ことしも全国大会に参加し、よい成績があげられるよう努力したい。

―インターハイ出場を―

洛星高（京都）監督　小西博喜

昨年は全国高校大会でベスト8に進出しながら、経験不足から優勝校明星（東京）に惜敗した。この大会の経験と自信に基づいて、ことしも三年生四人を中心に全国高校大会出場を一大目標に練習に励みたい。全国高校大会経験者が六人残っていることは心強いが、技術、経験両面において、メンバー間の格差が著しいのが現在の悩みである。春を一つの目途にして、全員が平均した技術、体力、精神力を身につけ、バランスのとれたチームをつくることが課題である。

―基礎体力の強化―

住吉学園高（大阪）監督　常石栄志

昨年度チーム結成いらい八年目でインターハイ初出場を果たしたが、今春レギュラー六人の卒業生を送り出すためチーム力の低下は否めない。今後の練習課題として（1）基礎体力の強化、充実（2）基礎技能の反復練習を徹底的に実施（3）脚力とスタミナのあるチームづくり――を目ざしている。またチームワークの育成とともに各種大会には一戦一戦慎重に戦い、今夏の近畿高校選手権大会、またインターハイへの連続出場を最大目標としてがんばっていくつもりです。

―まずチームワーク―

夙川学院高（兵庫）監督　下野和美

夙川学院にハンドボール部を設立して四年目を迎えようとしている。!!やるかぎりは自分の力で最高のものを!!と胸に秘ゆてボールを握った。昨年は夢にまで描いた全国高校選手権大会に出場できたことは、部員一同にとって大きい力となった。今後の目標としては、まずチームワークの完成につとめ、技術面ではディフェンスの強化に努める。クラブのモットーである根性と忍耐を持って練習に励みたいと思います。

―一戦必勝主義―

西宮東高（兵庫）監督　白井勇

昨年は兵庫県下ハンドボール部でも、まれにみる大型チーム（平均身長175センチ）を育成して2年目で念願のインターハイ出場を果たしたが、そのメンバーも三月全員卒業、昨年九月から新チームを編成し、冬期練習に励んできた。新チームは体格的に見劣りし、ゲーム運びに豪快さがみられない。走力に全力をあげ、ち密なハンドボールを身につけさせ、シュートの詰めを各自に応じたものにしたいと初歩的な面に重点を置いている。

部員のなかには、中学時代ハンドボールを経験した者はいない、未知な練習を通し、埋ずもれた素質を伸ばしていきたい。最後にことしの目標は、一歩一歩着実に歩んできた現在、ち密な技術によって一戦必勝主義をとっていきたい。

―伝統を守れ―

中京商（愛知）監督　横井保信

最近全国各地区のチームレベルが向上し、ぼやぼやしていると、置きざりになってしまう。私自身、長いようで短い高校ハンドボールの寿命を思い、少しでも多くのチームと接し、どのような練習により、どのような効果をあげているかを学びたい。それぞれのチームのよい点を勉強して、それを練習に役立たせたい。また私自身の目標としては、チームの毎日の生活を高校生として内面的に豊かなものにし、試合に望んでは一戦一戦が決勝のように考え、たいせつな伝統を守っていくように努力したい。

ことしの目標

ことしは基礎づくり

加納高（岐阜）監督 森川俊章

岐阜国体に優勝を目ざし、大分国体参加に懸命になり、そのうえ進学問題とが重なり合って現在部員も二年生一人、一年生八人と後続の指導に欠陥を生じている。いままで静岡、愛知に歯が立なかったのが、国体のおかげで女子は勝てるという自信ができた。ことし一年はじっくり基礎をやり、走・跳・投の三要素の養成に重点を置く。同時に細かい動き、機敏性とスタミナの養成にも力を入れ、全国高校と国体出場を目標にがんばりたい。

チームワーク

明星高（東京）監督 高橋英次

昨年同様チームワークを第一の目標に掲げ、いままでいろいろ不足していた基礎体力、技術、コンビネーションプレーなどの習得に努める。そうして一つでも多くそれらを身につけ進歩させたいと思う。

そうして練習を通して苦しさを乗り越えていく精神力、試合に望んでは自分たちの持っている力をフルに発揮できるようなチームになり、昨年よりすべての点で一歩でも二歩でも前進できるようがんばります。

大型チームに

神代高（東京）監督 大塚文雄

昨年は不運にして、インターハイ出場を逸してしまったが、ことしこそインターハイ上位入賞を目標にがんばりたい。

チームの型としては、昨年はあまりにも都会的なチームになりすぎ、よい意味での荒さがなかった。ことしはぜひ荒けずりな大型のチームに育ててみたい。技術的にはディフェンスに重点を置き、相手の速攻をいかに止めるか、ということにマトをしぼり、試合に臨みたい。

明星高を目標に

麻生高（茨城）監督 柏崎茂

昨年の全国高校大会優勝の明星（東京）三位の桜台（愛知）を目標に毎日がんばっている。ことしは部員に恵まれ、長身者が多いので楽しみです。チームワークもよく夢が実現できると全員がはりきっています。

2大タイトル獲得へ

栃木女高（栃木）監督 細井操

「インターハイ優勝」—これが今年度の第一の目標である。三十九年の優勝いらい、やや体力、技術面で消極的になり、意気沈滞であった。しかし今年度は県内大会を皮切りに、その低迷状態から脱却して再び王座獲得へ総力を結集する。これが第一目標である。次いで埼玉国体での優勝も大きな目標の一つである。昨年はインターハイ三位、国体四位の成績に甘んじたが、ここらで奮起して2大タイトルを獲得したい。

国体出場を

水海道二高（茨城）監督 鈴木孝八郎

昨年四月、監督に就任してから一年たった。未熟な自分の指導力を顧みて、ことしの目標は部員ともども一体となり、伝統ある数々の偉業を心に秘め、数多い大会に備えたいと考えている。ことしの国体は埼玉県で、関東予選が地元水海道市で開かれるので一層練習に励み、ぜひとも国体に出場したいと思っている。

一カ月に一選手養成

涌谷高（宮城）監督 山崎金夫

ことしに限った目標ではありません。毎年同じ目標を十八年間繰り返しているだけです。私は戦後の女性の精神的訓練の場としてハンドボールを求めたが、南方戦場で敗戦のみじめさを身をもって味わった者としてグラウンドで敗れて満足できるはずはありません。全国制覇——それは背伸びしても届かないほど、あまりにも高い所にあることをじゅうぶん知っている。いくらもがいても一年を七カ月とし、通学上から一日50分の練習、それにマナーを失った者は中心選手でも除名する悪癖をもっている限り、夢はあまりにも高すぎる。ことしは一カ月間に一選手養成で努力を積み、同じ運命の方々と年一回会える日を七夏まつりを待つ心で楽しみにしています。

栄誉をもう一度!!

四日市高（三重）

全国大会連続出場の栄誉に輝く先輩を持った私たち。けれどもその時いらい四日市高ハンドボール部は姿を消してしまった。その栄誉を〝もう一度〟と私たちは、四十年九月同好会を結成、当時メンバーは11人。女子ボールもコートもなく、運動場の片すみで体育科の男子ボールを借りて練習をした。練習はきつかった。同好会のため学校側からクラブ費はもらえず、一人一人に多くの負担がかかった。ボールがほしい！

八カ月がすぎ、昨年四月に顧問に一色先生を迎えた。先生は「こんな状態ではいけない」と学校側の承認を待たずにボールを買ってくださった。不安とうれしさのまざり合ったあの間、真新しいボールに〝四高〟と書き入れる先生。みんなはボールを手に運動場へ飛んでいた。それから一カ月―私たちのクラブは生徒会で承認された。そしていまではコートももらい、ネットもゴールポストも新調。部員も一、二年生合わせて13人。これからの練習もますますきつく、つらい。でも私たちはそれに耐える。インターハイ出場のために…。（主将　伊藤明美）

四日市高チーム

後輩よ!!がんばれ

天竜林業高（静岡）

静岡県立天竜林業高校。日本でたった三校しかないうちの一校に当たる林業高校である。このなかにハンドボール部がある。クラブとなって二年足らず、いままでの戦績を述べるほどのチームではない。先輩が残してくれた部を僕たちが伝統を築きあげねばならない。僕が主将になってこんなことを言われたことがある。「天林高にはりっぱな監督がいるのに、どうした」僕はなにもことばが出なかった。

こんなことがあってから僕たちは、せめて静岡県でも名の通るようにしたかった。そして初めに戦ったのは県西部大会であった。この大会はリーグ戦なのでほんとうの強さがわかる。このときとばかり無名だったわがチームは新しいユニホームをつくった。そして新たな気持ちで大会を迎えた。その結果、やっとのことで一位になった。そして三年最後の国体静岡予選の三位決定戦、延長のすえ2点の差で敗れた。三位になりたかった。でも僕たちはこれでもいいと思った。これで西部大会一位、県大会四位という「念願」のりっぱな伝統ができた。「後輩よ、がんばれ」。（主将高橋利広）

天竜林業高校チーム

全国高校大会目ざす

金沢工大付属（石川）

わが金沢工大付高のハンドボール部は三十九年に同好会として結成、二年生が中心となってつくられました。結成時には、中学時代にハンドボールをやっていたのは一、二人で、三年生のなかでハンドボールをマスターした人が教えていました。運動場を少しでもよくするために土をまき、練習に励み、努力していたそうです。初めは成績もよくなく、負ける方が多かった。一昨年に部となり、そして新しく一年生のなかからハンドボールが好きな者がはいり、新しい力が導入されて大いに意気があがりました。

一昨年のインターハイで三位、石川県体兼国体予選で三位に入賞し、先輩たちや僕たちも「努力のかいがあった」と非常に喜びました。その後三年生が退部し、一年生だけでやってきました。先生から聞いた話ですが、先輩たちはやっとハンドボールがおもしろくなってきたのに、残念だといっていたそうです。先輩たちの苦労を僕たちの成績で返そうとがんばってきました。その練習と先生のよき指導が実って、昨年の石川県体兼国体予選は二年生だけで見事3位に入賞したのです。ことしのインターハイ、国体出場を目ざし、毎日汗を流してます。（主将中川雅晴）

金沢工大付属高チーム

一にも二にも練習

金沢商高（石川）

私たちのハンドボールクラブ成立して三カ年。この間、クラブ員は「練習こそ優勝への近道」をモットーに一にも練習、二にも練習と、全員が一丸となって努力してきました。そのかいがあってか、一昨年は北信越大会で初遠征し、選手たちは最後までよく走り、よくがんばりました。ハンドボール精神というものをつかんだこの経験で、われわれは大きな教訓を学びとることができました。いま、わがクラブは「二

金沢商高チーム

年生五人、一年生六人」という小人数ですが、この欠点を克服して念願の栄光を勝ちとるために、きょうも先輩の指導のもとに練習に励んでいます。（矢木外喜子）

努力即大成

世羅高（広島）

こんにちは！ハンドボールのみなさん。あなたがたが広いグラウンドに若さをたたきつけているころ、私たちも同じように広いグラウンドで他の部に負けぬように—と大声をはりあげ、練習に励んでいます。部創設いらい六年、先輩たちの汗と涙と怒りと喜びの結晶が今日の私たちの立ち場を築いてくれたのです。

世羅高チーム

広い青空を見て「先輩ありがとう！」と感謝の気持ちを胸に練習、最後の深呼吸を深く深く吸い込むのです。体内の血が逆流するような激しい練習中、練習に身のはいっていないものには容赦なくボールが飛び、ぼやぼやしているといやおうなしに押しのけられる。こうして鍛えられた私たちは同じように後輩にそれを繰り返す。若さの固まりが、ぶっかり合い、走り、飛び、ころげ回る。

「人間努力すれば大成される」をモットーに未熟な技術にみがきをかけ、二年後の広島でのインターハイ目ざして練習に一層の努力を重ねています。

（主将　栗政光子）

彼の笑いが救い

初芝高（大阪）

われわれは必死に、スポーツにいどむ美しい姿にあこがれながらも、なにか欠けているのではないか—と疑惑を持った。それでわれわれのクラブを紹介することはしました。

一年生当時は黒星続きでした。そのたびにきびしい練習を続けたが、良い成果があげられず、遺憾ながら退部者も現われる始末。それから、一年も終わりになって一人の入部者が現われた。その彼は不得手なスポーツと相反し、体中からあふれそうなユーモアでいっぱいでした。彼の笑いは、当時のわれわれの闘志を奮起させ、みんなの明るい声を生みました。それらは、交代制のグラウンド使用、部員不足、コーチがいない—などといった他校へのコンプレックスは、この楽しい日々の汗とともに流れ去っていました。昨年秋に堺市民大会で優勝したことは、大いにわれわれの意欲をもやし、府下大会の上位進出、さらに国体までと、こんな勇気ある望みを持ち上げたのは彼だけでありませんでした。

考えて見ると、われわれはきびしいなかにはつらつとした笑いを求め、これを味わうべきではないでしょうか。だれもが、楽しいスポーツを待ち望んでいるように。

初芝高チーム

礼儀をわきまえよ

高水高（山口）

女子ハンドボール部として発足して一年余り。しかしまだ正式な部ではありませんが、ゴムボール片手に男子コートの半分を占領して遊びともなにともわからない、ボール投げから始めました。そしてルールもプレー運びも知らないままに初試合へ…。

結果はわかっていたけれど、恥をかいたような気持ちで寂しく帰ってきました。そのうちに先生の指導もきびしくなり、練習内容も意義あるものになりました。じりじりと照りつける太陽の下での合宿練習にも耐え、私たちにも革ボールが手に合うようになり、一回二回と勝ち残れるようになりました。山口県体育大会で第三位、岩国、柳井大会で初優勝と好成績、優勝旗を手にしたときはうれしさでいっぱい。

私たちには伝統こそないけれど、どこにも負けないファイトを持っています。今度先輩と呼べる人たち「三年生が現役をしりぞいたので」精神的にも強くなった。

高水高チーム

「強いチームをつくるには礼儀をわきまえ、ハンドボールのマナーを早く身につけよ」と先生はいつもおっしゃっている。この先生のことばを心に銘じ、内輪もめの多い私たちだが、それも一つの修業と心得、仲よくやっていき、輝かしい伝統をつくるよう努力したいと思います。（主将　広兼信子）

練習は楽しい

臼杵高（大分）

中学時代にバスケットボールをやっていた私は、入学するとすぐハンドボールに引っぱられました。もともと好きなスポーツでしたが、勉強との両立、親の反対などで、入部しても一学期間はずっと悩み続けたものです。何度やめたいと思ったかしれません。一番星の出る日暮れ道を涙ぐみながら帰った日もありました。

それでも、苦しいなかになにかをつかみ、むしり取る若い力の偉大さ、先輩との心のなれ合いは、私をやめさせませんでした。でも練習というものはやればやるほど楽しいものです。苦しい練習ほど、終わったあとの満足感は大きく、そして限りない喜びがあります。

ハンドボールの収穫は友を得たことです。いま二年生の六人は交換日記でしっかりと結ばれています。初めは二人でした。練習のきびしさや青春の悩みを全部打ち明け、励まし合って楽しい学校生活を送っています。同級生からも、ハンドボールはまとまっているとよくいわれます。これからもきびしい練習が待っていますが、私は自信があるのです。（主将　吉田増江）

再び「洛星旋風」を

洛星高（京都）

洛星高校ハンドボール部は、昭和三十年創立されていらい、京都高校ハンドボール界を伏見工と二分する強力チームを誇っている。

昨年の京都府高校男子は近畿一の高水準を示したが、洛星と伏見工とのせり合いが激しく、インターハイ予選は洛星が快勝、国体予選は伏見工が勝った。しかし7人制移行後は、常にリードされていた洛星が、四年ぶりにインターハイに出場し、しかも優勝した明星（東京）に準々決勝で9―10と1点差で惜敗した。しかしベスト8まで勝ち進んだことは洛星にとっても、また京都府にとっても大きな進歩であったと思う。

洛星の飛躍の因は、従来少なかった練習時間を多くし、また積極的に他府県へ遠征して桜台、名城大付属、新居浜工などの名門校に胸を貸してもらったことだと思う。それによって、洛星は伝統的な遅攻のチームカラーに強い防御と有効な速攻を加味して、スケールの大きいチームになることができたのだ。ことしは、再び全国に「洛星旋風」を巻き起こそうと意気込んでいる。（主将　吉沢　潔）

洛星高チーム

さらに努力

新庄工高（山形）

わが校のハンドボールは現在愛好会で、ことし「部」に昇格する約束になっています。さて県で男子五番目のハンドボール部のある学校になったのは、結城先生が着任してからです。体育の授業を通し、ハンドボールを知り、当時二年生であつた私たちが中心に愛好会をつくりました。ボールを初めて握る私たちと先生は、基礎練習をボールが見えなくなるまで毎日毎日練習を続けてきました。

基礎練習も不じゅうぶんながら練習試合を通し、われわれの愛好会も一応軌道に乗ってきました。ところが三十人近くいた部員が、夏季休暇を前にしてチームの和、部費、月二回の他流試合、精神力などの不足のため最悪の状態になり、先生の忠告やわれわれの話し合もおよばず去って行く者が相次ぎ、現在十三人まで減ってしまいました。毎日きびしい練習と部員不足に頭を悩ましています。

昨年の成績は連敗でしたが、でもわれわれはハンドボールを通して人間的に必要欠くべからざるものを身につけました。今後もさらに努力し、不動の栄光に向かってがっちりスクラム組み、きょうも練習に励んでいます。（主将　小林誠二）

新庄工高チーム

ゴールポスト倒れ死ぬ

二月二十二日午後零時二十五分ごろ、東京都葛飾区亀有一ノ七ノ一都立葛飾野高校（徳久鉄郎校長）のグラウンドで、二年五組の生徒たちがサッカーで遊んでいるうち、ゴールキーパーをしていた宮坂敏夫君（一七）はふざけて鉄製のハンドボール用のゴールポストにぶらさがったとたんゴールが倒れ、いっしょに地面にたたきつけられた。すぐ近くの病院にかつぎこまれたが、鉄のワクで胸を強く打って内臓破裂のため午後一時すぎ死んだ。（朝日新聞から）

連載第30回

ハンドボール球史

～全日本総合選手権編最終回～

　第11回（昭和34年度）以降の全日本総合選手権については、そのつど本誌各号に詳報されている。この期間のおもな流れをとらえてみると、男子では芝浦工大（東京）の躍進が目だった。34年度からの三連勝は現役学生チームとして史上初の快記録で、とくに34度は全日本学生、同王座、全日本室内（現名称・全日本選抜）と全日本の4タイトルを独占、〃芝浦工大時代〃のなかでも最もはなやかなシーズンだった。

　また35年に誕生した大崎電気（埼玉・当時東京）は初出場で準優勝していらい、つねに上位3強に名を連ね、37年には、男子実業団として初めて全日本チャンピオンとなり、39・40年にも優勝した。こうした新勢力の進出に引き替え、名門の日体系、教育大系チームに後退がみられ、日体系の優勝は33年を最後にストップ。教育大系にいたっては37年全教大（東京）が準々決勝に残った以後、ベスト8からも姿を消してしまった。

　またクラブチームも学生界、実業団、新勢力の教員界に押され気味で、かつての桜丘会（愛知）のような活躍はのぞめなくなった。

　なお37年から懸案の地区予選制を採用、協会、学連、実連からの推薦チームを加え優秀32チームに改正された。38年からは7人制に切り替わっている。

　女子は32年デビューした愛知紡（愛知）によって〃実業団黄金期〃が現出。36年からは決勝戦はつねに実業団同士の対決となり、39年はついにベスト8を実業団が独占するまでになった。女王の座も常勝愛知紡から大洋デパート（熊本）大崎電気（埼玉）と変わった。大崎電気は39年に初の男女優勝の偉業を遂げた。女子は相変わらずオープン制（自由参加）だが、近い将来、男子と同じように予選、推薦制が採用されるだろう。

　前述のように本誌に収録されているので、今回はその決勝記録と優勝メンバーを掲げる。

芝浦工大、宿願の初優勝

▼第11回（昭和34年8月13日～17日・熊本県水俣市浜公園ほか）

▽男子決勝（参加30）

芝浦工大（東京）18（10－5／8－10）15 全日体大（東京）

優勝メンバー

福本　弘
尾藤嘉邦
田口侑義
村上　厳
黒沢博美
高井　弘
塩川安賢
服部和記
山田幸男
宮原俊隆
鷹見陽平
佐藤宏輔
村上善英
大橋芳勝

▽女子決勝（参加16）

愛知紡（愛知）8（5－3／3－4）7 熊本ク（熊本）

優勝メンバー

野崎準子
山崎鉦子
滝本芳子
瀬川晶子
磯部昌子
青木悠子
沢田勝子
黒野政子
桑山春子
太田隆子
生駒玉枝
金沢千恵子

（第11回大会全記録は1号26頁）

東北で初の開催

▼第12回（昭和35年8月10日～14日・秋田県大曲中（男）、湯沢西小（女）ほか）

▽男子決勝（参加23）

芝浦工大（東京）13（7－3／1－5／3－1／2－1）10 大崎電気（東京）

優勝メンバー

福本　弘
尾藤嘉邦
村上善英
勝倉寅男
田口侑義
武井　昭
佐藤宏輔
北村尚英
山田幸男
金山　大
塩川安賢
鷹見陽平
間　泰二
久保　勤
越智節生

▽女子決勝（参加11）

愛知紡（愛知）10（7－2／3－3）5 日体大（東京）

優勝メンバー

野崎準子
山崎鉦子
宮本幸子
塚原米子
磯部昌子
青木悠子
沢田勝子
金沢千恵子
山田和子
新美勝野
藪内多恵子
八橋君枝

（第12回大会全記録は3号12頁）

芝浦工大3連勝の快挙

▼第13回（昭和37年8月13日～17日・岡山県倉敷青陵高ほか）

▽男子決勝（参加38）

芝浦工大（東京）17（9－9／8－5）14 大崎電気（東京）

優勝メンバー

谷　義信
勝倉寅男
久保　勤
中村　宏
斉藤明郎
野村　進
佐藤宏輔
金山　大
北村尚英
間　泰二
越智節生
青木　実
森田謙喜
中　勲
福島幸男

▽女子決勝（参加15）

愛知紡（愛知）8（3－4／3－2／0－0／2－0）6 大洋デパート（熊本）

優勝メンバー

篠崎益野
山崎鉦子
宮本幸子
塚原米子
磯部昌子
青木悠子
沢田勝子
山田和子
古谷うめ子
下永瀬豊子
八橋君枝
藪内多恵子

（第13回大会全記録は7号6頁）

男子、予選制を採用

▼第14回（昭和37年8月19日～8月23日・山口県下松中（男）徳山高（女）ほか）

▽男子決勝（参加25）

大崎電気（東京・協会推薦）17（10－8／7－3）11 全日体大（東京・協会推薦）

優勝メンバー

今野邦彦
高森孝一
高橋滋夫
村上　厳
田口侑義
高井　弘
金田純男
小谷内正信
井上素行
竹野奉昭
福本　弘
餅原正脩
宮原　宏
坂野　進

▽女子決勝（参加20）

全日本総合選手権年次優勝チーム

〔戦前の全日本選手権〕	男子	女子
①昭12（東京）	大塚クラブ（東京）	………
②昭13（東京）	日体専（東京）	………
③昭15（東京）	日体（東京）	倉敷高女（岡山）
④昭17（東京）	日体倶楽部（東京）	倉敷高女（岡山）
〔全日本総合選手権〕	**男子**	**女子**
①昭25．1（一宮）	日体桜（東京）	愛知クラブ（愛知）
②昭25.11（東京）	スワロー松（東京）	全山梨（山梨）
③昭26（小松）	東京スワローク（東京）	芙蓉クラブ（東京）
④昭27（東京）	セントポールA（東京）	……………
⑤昭28（富士吉田）	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑥昭29（平塚）	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑦昭30（明石）	西日本日体OB（福岡）	水海道二高（茨城）
⑧昭31（清水）	全日体大（東京）	半田高（愛知）
⑨昭32（氷見）	全日体大（東京）	愛知紡（愛知）
⑩昭33（下関）	全日体大（東京）	愛知紡（愛知）
⑪昭34（水俣）	芝浦工大（東京）	愛知紡（愛知）
⑫昭35（大曲）	芝浦工大（東京）	愛知紡（愛知）
⑬昭36（倉敷）	芝浦工大（東京）	愛知紡（愛知）
⑭昭37（下松）	大崎電気（東京）	愛知紡（愛知）
⑮昭38（柏崎）	立大（東京）	大洋デパート（熊本）
⑯昭39（高山）	大崎電気（東京）	大崎電気（東京）
⑰昭40（大分）	大崎電気（埼玉）	大洋デパート（熊本）
⑱昭41（浦和）	全立大（東京）	大崎電気（埼玉）

※昭35女子会場は湯沢．昭37女子会場は徳山。

愛知紡（愛知）6（4―2，2―2）4 大洋デパート（熊本）

優勝メンバー

篠崎益野　宮本幸子　山崎鉒子　塚原米子　磯部昌子　古谷うめ子　山田和子　青木悠子　沢田勝子　森口重子　石川了子

（第14回大会全記録は11号19頁）

愛知紡　七連勝ならず

▼第15回（昭和38年8月21日～25日・新潟県柏崎市営球技場）

▽男子決勝（参加32）

立大（東京学連推）18（10―6，6―10，…，2―0，0―1）17 全日体大（東京協会推）

優勝メンバー

尾形譲　安達精太　中根敏夫　江名英彦　田村信太郎　斉藤美孝　松本隆一　高久保彰夫　西村秀夫　庵原敏郎　林一毅　伊東正　谷川茂美

▽女子決勝（参加22）

大洋デパート（熊本）7（3―2，4―3）5 東京レナウン（東京）

優勝メンバー

木原千代子　立山靖代　徳永智子　桜木礼子　千原五鈴　西村八千代　久連松美和子　中村千恵子　高山ヤヨイ　中尾孝子　山口律子　新保郁子　山口ヨシ

（第15回大会全記録は15号9頁）

大崎電気が男女優勝

▼第16回（昭和39年8月23日～27日・岐阜県高山市営球技場）

▽男子決勝（参加32）

大崎電気（東京協会推）15（9―4，6―9）13 全立大（東京協会推）

優勝メンバー

福本弘　田口脩義　宮原藤支男　北村尚英　金田純男　井上素行　竹野奉昭　小谷内正信　杉山成司　餅原正脩　今野邦彦　坂野進　宮原宏

▽女子決勝（参加22）

大崎電気（東京）11（3―3，8―1）4 愛知紡（愛知）

優勝メンバー

古谷芳枝　田村うた子　笠原喜代子　宇井敬子　黒川泰恵　鈴木功子　永井昭子　深津久仁子　斉藤親子　早川清美　川崎幸子　小笠原英佐子　伊藤せつ子

（第16回大会全記録は19号10頁）

女子、決勝リーグ制となる

▼第17回（昭和40年8月22日～26日・大分県鶴崎高）

▽男子決勝（参加29）

大崎電気（埼玉協会推）23（11―5，12―6）11 芝浦工大（東京協会推）

▽女子決勝リーグ（参加14）

大崎電気（埼玉）9―5 田村紡（三重）

大洋デパート（熊本）8―5 愛知紡（愛知）

大崎電気 13―6 愛知紡

大洋デパート 7―6 田村紡

大洋デパート 8―7 大崎電気

田村紡 18―4 愛知紡

【順位】①大洋デパート②大崎電気③田村紡④愛知紡

優勝メンバー

福本弘　田口脩義　小谷内正信　北村尚英　金田純男　宮原藤支男　竹野奉昭　井上素行　坂野進　西村功　下里敏彦　宮原宏　餅原正脩

優勝メンバー

山口律子　久連松美和子　西村八千代　高山ヤヨイ　中村千恵子　枝尾清女　新保郁子　射場美穂子　稲田光代　隈茂子　小原名苗　木原節子　田中由紀子

（第17回大会全記録は26号4頁）

×　×　×

〔注〕昨年の第18回大会は割愛します。なお男子は全立大、女子は大崎電気が優勝しています。

地方だよりへの寄稿を歓迎します。紙面の関係で大会全記録を掲載できない場合もあります。ご了承ください、あて先は日本協会編集部。

地方だより

岡野愛球会が優勝

◇第13回福岡県室内選手権大会（1月6日—8日、北九州市若松高校体育館）

▼高校男子一回戦

博多工 18—6 門司
八幡工 不戦勝 福岡工
若松 不戦勝 嘉穂農
小倉工 19—12 久留米工

▽二回戦

小倉工 25—16 東海第五
筑紫中央 10—8 田川工
香椎 16—6 田川商
若松 16—11 福岡電波
八幡工 19—6 西南
宗像 22—6 田川農
小倉西 14—6 明善
博多工 15—9 南筑

▽準々決勝

小倉工 23—9 筑紫中央
若松 9—8 香椎
宗像 13—12 八幡工
小倉西 17—6 博多工

▽準決勝

若松 12—11 小倉工
宗像 8—4 小倉西

▽決勝

若松 10（6—5 4—4）9 宗像

▼高校女子一回戦

明善 13—0 室見ヶ丘
美萩野 9—5 福岡女
門司 12—6 古賀
信愛女 9—3 筑紫中央

▽準決勝

明善 15—5 美萩野
門司 8—3 信愛女

▽決勝

明善 10（5—2 5—3）5 門司

▼一般男子一回戦

博送ク 12—11 西南大
福岡教員 18—13 九大

▽準々決勝

宗像高ク 17—15 博送ク
岡野愛球会 17—16 幹候校
西南大ク 24—17 小倉工OB
福岡教員 19—10 香椎高ク

▽準決勝

岡野愛球会 20—11 宗像高ク
福岡教員 21—13 西南大ク

▽決勝

岡野愛球会 13（4—5 9—6）11 福岡教員

大阪イーグルス優勝

◇第6回大阪府室内選手権大会（1月7日〜10日、大阪市立中央体育館ほか）

▽男子一回戦

潮ク 19—13 全関大
鳳友会 不戦勝 寝屋川ク
西野田ク 19—18 三国丘ク
八尾高 29—18 THク

▽二回戦

佐野工ク 29—22 関西球友会
松ヶ枝ク 26—17 大歯大ク
潮ク 13—11 雪陵ク
大阪イーグルス 26—12 鳳友会
宗形製作 21—15 西野田ク
八尾高ク 21—16 富田林ク
関大 14—13 阪大
大商OB 不戦勝 関学ク

▽準々決勝

佐野工ク 24—11 松ヶ枝ク
大阪イーグルス 11—7 潮ク
宗形製作 24—12 八尾高ク
関大 17—16 大商OB

▽準決勝

宗形製作 16—15 関大
大阪イーグルス 32—15 佐野工ク

▽決勝

大阪イーグルス 17（11—5 6—9）14 宗形製作

▼女子決勝（2チーム）

大谷高ク 12（5—1 7—1）2 住吉学園ク

鎌倉学園ク四連勝

◇神奈川県室内選手権大会（2月13日・横浜文化体育館）

▼高校男子準決勝

関東学院 14—13 東
鎌倉学園 9—8 横浜商工

▽決勝

関東学院 23（11—2 12—3）5 鎌倉学園

関東学院六回目の優勝

▼女子決勝リーグ

市立川崎高 16—5 大津高
市立川崎高 10—6 市立川崎高OG
市立川崎高OG 10—3 大津高

市立川崎高は三回目の優勝

▼一般男子準決勝

鎌倉学園ク 25—16 横浜商工ク
三春台ク 16—13 教員団

▽決勝

鎌倉学園ク 20（9—6 11—9）15 三春台ク

鎌倉学園クの四連勝

金沢市工が初優勝

◇石川県総合室内選手権（2月・金沢）

▼男子準々決勝

県工ク 11—4 金沢美大
小松製作所 15—14 二水高
金工大付高 14—13 金沢高専
金沢市工 19—14 金沢商

▽同準決勝

県工ク 22—9 小松製作所
金沢市工 23—12 金工大付高

▽同決勝

金沢市工 16（7—7 9—6）13 県工ク

金沢市工高は初優勝

▼女子準決勝

小松市女OG 20—4 金沢商
小松市女高 7—6 羽咋高

▽同決勝

小松市女OG 17（9—4 8—6）10 小松市女

編集後記

○…世界選手権大会で日本は10位になった。外電によると「日本チームの長足の進歩はすばらしいものがあり、ミュンヘン・オリンピックがたのしみ」と伝えている。日本のハンドボールが、やっと世界各国から認められたのだ。あすといわず、きょうからオリンピックに向かって前進しよう。

○…名古屋の実業団選手権は男子大崎電気、女子田村紡が優勝した。おめでとう。とくに女子は田村紡—大崎電気の決戦となった。ことし四度目の対決。両チームとも二つずつタイトルを握ってシーズンを終わったが来シーズンの対決は実に興味深い。結婚のため現役を退く人もあろう。新メンバーでの対決だけに大いに期待しよう。

○…本誌が全国のハンドボール関係者に行き渡ったころ、日本協会の会長その他の新役員が決まり、五年先のミュンヘン・オリンピック目ざしてスタートを切っている。清新の気がみなぎっていることでしょう。また各種大会の日程も決まり、関係者はその準備にご苦労なさるでしょう。四十二年度もお互いにがっちりスクラムを組んでがんばりましょう。世界ナンバーワンの座を目ざして……（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第四十一号
昭和四十年六月十　第三種郵便物認可
昭和四十二年二月二十五日印刷
昭和四十二年三月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
京都渋谷区神南町二五
話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人　鈴木達雄
定価　百五十円